富山県舟橋村

竹内遺跡発掘調査報告

―― 住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査 ――

2014年３月

舟橋村教育委員会

序

立山山麓を源流とし富山平野の東側を北流する常願寺川。この常願寺川の扇状地端部の右岸に舟橋村は位置します。この常願寺川の豊富で清涼な伏流水が当村を潤し肥沃な大地にしており、古来より人々がその恩恵を受けて生活していました。

近年では、住みやすさや交通の便の良さなどから宅地開発が進んでいます。今回の調査も、宅地開発に伴い発掘調査を実施しました。

奈良から平安時代にかけての当村域は東大寺領荘園大藪荘の有力な比定地であり、今回の調査でもこの大藪荘が営まれた時期にあたる溝を確認し土師器・須恵器が出土しました。この須恵器には「浄子」と人名を墨書したと推測できるものも出土しました。室町時代になりますと、当村には仏生寺城が築かれます。今回の調査地区はこの仏生寺城の西側にあたり字名等からは家臣団の居住域と推測できます。今回の調査では井戸２基を確認しました。また珠洲、越前、中国製の白磁、天目茶碗、青磁などの遺物が出土しました。

これらの遺構・遺物は、当村の古代から中世にかけての歴史を知る上で貴重な資料となりました。

おわりに、本遺跡の調査にあたり富山県埋蔵文化財センターを始め関係各位、地元のみなさまにご援助・ご協力を頂きました。

衷心より感謝申し上げます。

平成26年３月

舟橋村教育委員会

教育長　髙野　壽信

例　言

1．本書は住宅団地造成事業に伴う竹内遺跡の発掘調査の報告書である。

2．当調査は、舟橋村教育委員会が主体となり富山県埋蔵文化財センターの協力の下、株式会社エイ・テックが実施した。

3．調査地区は、中新川郡舟橋村竹内である。

4．調査期間は以下の通りである。

現地調査；平成25年８月26日～同年10月３日

整理作業；平成25年８月26日～平成26年３月25日

5．調査関係者は以下の通りである。

［富山県埋蔵文化財センター］

所　　長；安念　幹倫

監督職員；神保　孝造（副主幹）

［舟橋村教育委員会］

教 育 長；髙野　壽信

監督職員；加藤　　穣（主事）

［株式会社エイ・テック］

主任調査員；岡田　一広

担当調査員；吉田　有里

6．現地調査及び報告書作成において、以下の各氏・各機関より御教示・御援助を得た。

川崎　晃、鈴木景二、藤田富士夫、三浦知徳、三浦亜友美、三鍋秀典

富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山県埋蔵文化財センター　（順不同・敬称略）

7．本調査の出土品及び発掘調査・整理作業に関する資料は舟橋村教育委員会が保管している。

8．種子同定は島田亮仁氏（（公財）富山県文化振興財団）に報告していただいた。

9．本書作成は神保の監修の下実施した。本書の編集は、岡田が担当した。本書の執筆分担は以下の通りである。

第１章第１節－加藤、第２章－吉田、第３章第４節－島田、それ以外－岡田

凡　例

1．調査区の座標は、公共座標（世界測地系2011・第Ⅶ系）を基準に設定し、方位は座標北、標高は海抜高である。

2．本書における遺構記号は、次の通りである。

ＳＤ－溝、ＳＥ－井戸、ＳＫ－土坑、ＳＰ－ピット

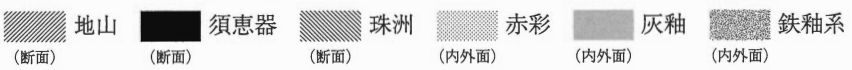
3．遺構個別図の縮尺は１／40を基本とし、その他の縮尺は図中に縮尺を明示した。

4．本書における遺物番号は通し番号とし、遺物実測図、写真図版の右下に数字で表した。また、遺物実測図は１／３を基本とし、その他の縮尺は図中に明示した。

5．土層説明および遺物の色調については、小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　『新版　標準土色帖』（2003年版）に準拠した。

6．実測図中の塗り表現は以下の通りである。

遺構　　遺物（土器類）



目　　次

序
例言・凡例
目次

第１章　序説 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　遺跡概観 …… 2

第２章　調査の成果 …… 5
第１節　調査概観 …… 5
第２節　遺構 …… 7
第３節　遺物 …… 9
第４節　竹内遺跡における中世井戸出土の種実遺体群 …… 13

第３章　総括 …… 16

図　面　目　次

図面01　遺構実測図　調査地区全体図（１／400）
図面02　遺構実測図　遺構平面図〔１〕（１／200）
図面03　遺構実測図　遺構平面図〔２〕（１／200）
図面04　遺構実測図　遺構平面図〔３〕（１／200）
図面05　遺構実測図　井戸・土坑実測図（１／40）
図面06　遺構実測図　溝土層断面図（１／40・１／60）
図面07　遺物実測図　土器類（１／３）
図面08　遺物実測図　土器類（１／３）
図面09　遺物実測図　土器類（１／３）
図面10　遺物実測図　土器類（１／３）
図面11　遺物実測図　土器類（１／３）
図面12　遺物実測図　土器類・その他の遺物（１／３・１／４）

図　版　目　次

図版01　遺構　１．調査地区全景（西）
　　２．調査地区全景（上方）
図版02　遺構　１．溝ＳＤ03全景（南）
　　２．井戸ＳＥ01全景（東）
　　３．井戸ＳＥ02全景（東）
図版03　遺物　土器類　弥生土器・須恵器
図版04　遺物　土器類　須恵器
図版05　遺物　土器類　須恵器・珠洲・八尾・越前
図版06　遺物　土器類　瓦質土器・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸
図版07　遺物　１．土器類　瀬戸美濃・肥前・伊万里
　　２．その他の遺物　鞴の羽口・部材・鉄滓・石棒・管玉未製品・行火・砥石・石臼

挿　図　目　次

第１図　調査地区位置図（１／5,000）…… 1
第２図　遺跡位置図（１／20万）…… 2
第３図　遺跡地図（１／１万５千）…… 4
第４図　基本層序模式図 …… 6
第５図　管玉未製品実測図（実大）…… 10
第６図　竹内遺跡出土の種実遺体群 …… 15
第７図　仏生寺城と周辺の小字名（１／5,000）…… 16

挿　表　目　次

第１表　土器類観察表〔１〕…… 11
第２表　土器類観察表〔２〕…… 12
第３表　種実同定結果一覧 …… 14
第４表　分類群の記載 …… 14

第１章　序　　説

第１節　調査に至る経緯

試掘調査

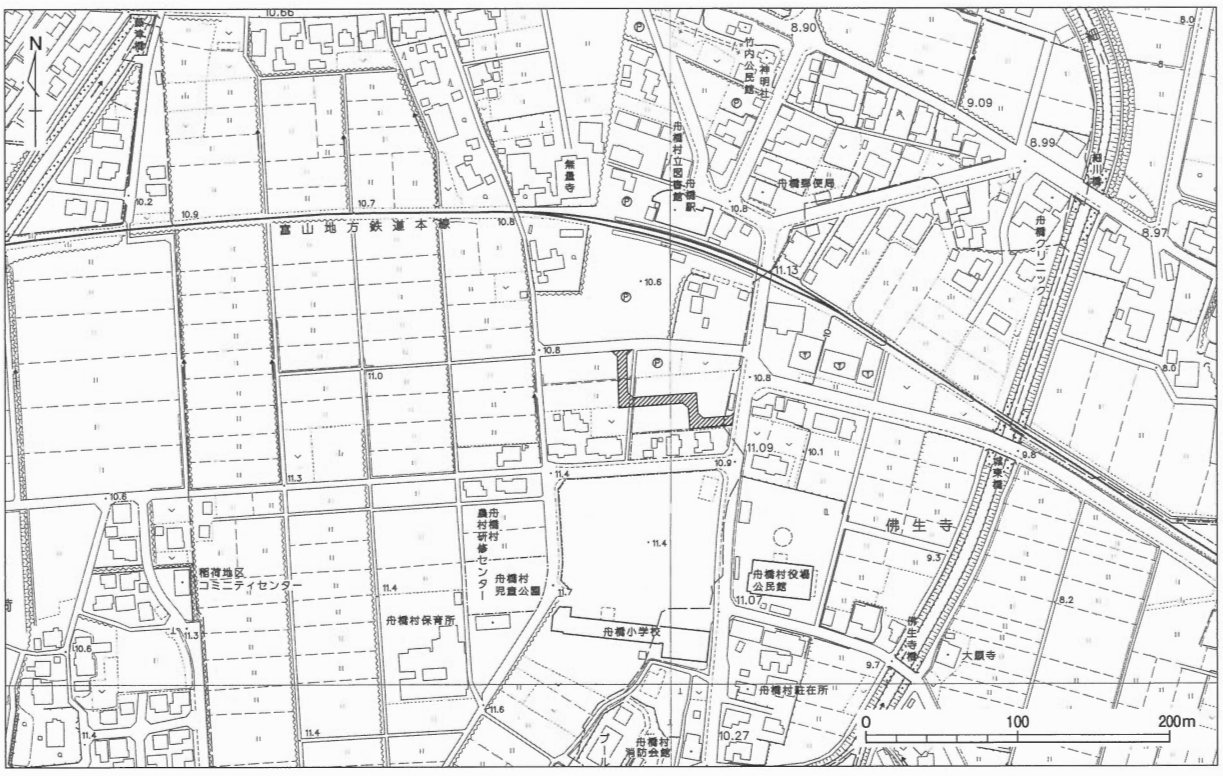
民間事業者から仏生寺城跡西側隣接地区に宅地造成の計画がなされた。この事業計画を受けて平成24年11月28・29日にかけて富山県埋蔵文化財センターの指導のもと試掘調査を実施した結果、土坑・溝などの遺構を検出し、須恵器・珠洲等の遺物も出土したため埋蔵文化財の保護処置の必要があった。

分布調査

この事業地内は仏生寺城の城域より大部分が外れており、新たな遺跡が想定された。そこで平成25年３月18日に分布調査を実施し、本事業箇所より西側の範囲でも遺物が採取できたので新たな遺跡として登録する必要ができ、平成25年３月29日に新規に竹内遺跡として遺跡登録申請し、平成25年12月６日に登録完了した。

本発掘調査

本発掘調査は事業の関係上９月末までの現地調査完了を目途に実施した。遺跡名称は、新規登録中であったが竹内遺跡として実施した。調査体制は、調査の監督職員として富山県埋蔵文化財センターが指導し、株式会社エイ・テックが実施することとなった。　　（加藤　穣）



第１図　調査地区位置図（１／5,000）

第２節　遺跡概観

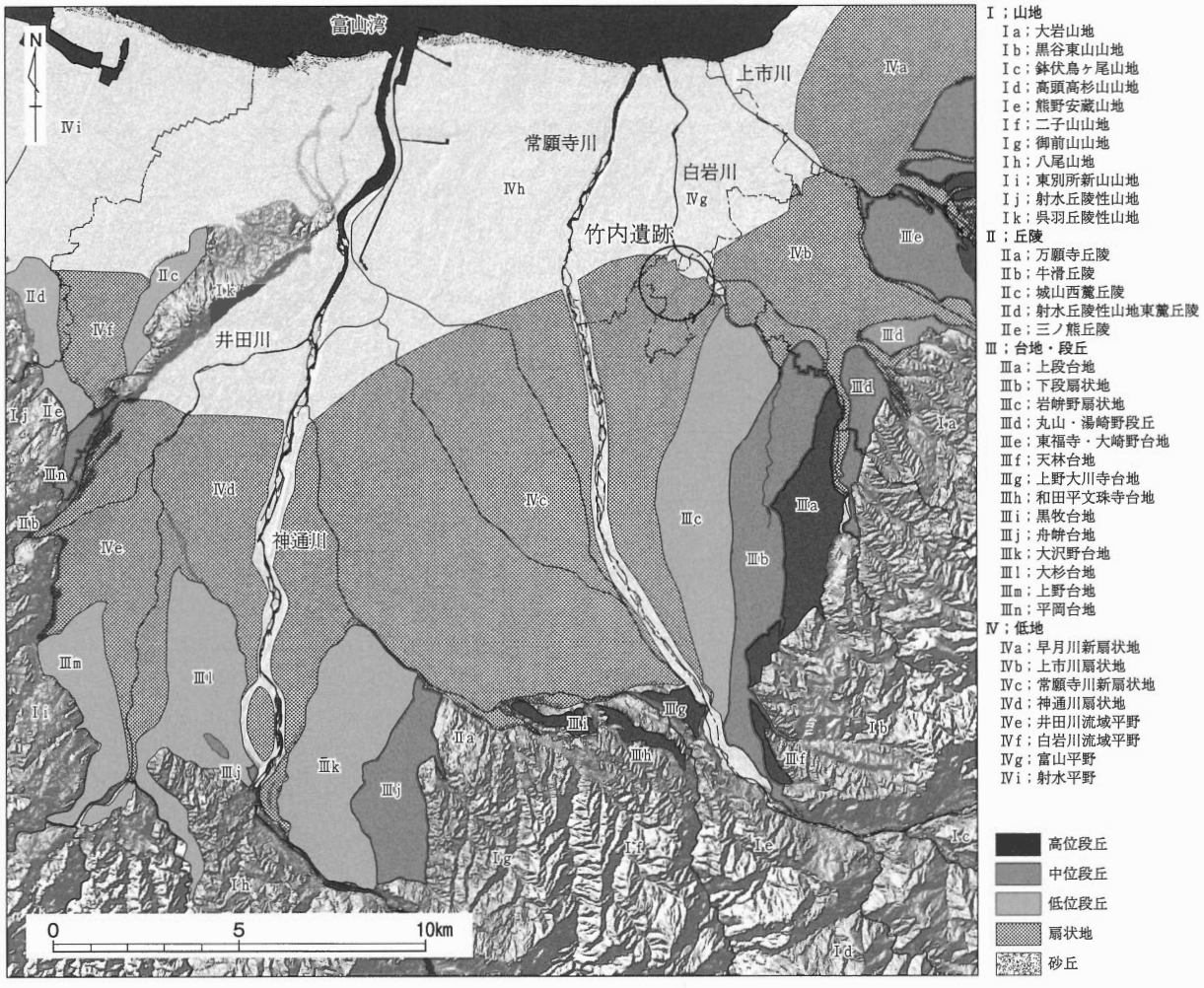
１．環境

地勢

富山県の東部に位置し南北に連なる立山連峰の北ノ俣岳（上ノ岳、標高2,662m）から発する常願寺川は、幹川流路延長56km、流域面積368㎢の一級河川で、富山市水橋地内で富山湾に注ぐ。富山市上滝・立山町岩峅野付近を扇頂部とし、飛騨高地の川上岳（標高1,626m）から発する神通川とともに複合扇状地を形成し富山平野となる。現扇状地右岸には往古の扇状地が段丘化した上段台地や下段扇状地を形成する。

安政５（1858）年に起きた飛越地震にて大鳶山・小鳶山が崩壊し、その土砂が常願寺川支流の湯川が流れる立山カルデラ内で湯川を堰き止めた。このため土石流等の水害しばしば起こるようになり、明治時代に入り河川改修がなされ、立山カルデラには砂防ダム建設、下流ではＪＲ水橋駅周辺で白岩川と合流していたが分離し現在の流路となった。

白岩川は大辻山（標高1,361m）に発し、幹川流路延長29.1km、流域面積134㎢の二級河川である。舟橋村



第２図　遺跡位置図（１／20万）

舟橋付近で栃津川と合流した後、下流域は蛇行が大きくなり後背湿地を形成する。水量が豊富で流れが緩やかなため水運が発達した。

地誌

舟橋村は常願寺川右岸、扇状地の扇端部に位置し、北東端部では白岩川と栃津川が合流しかつては大きく蛇行しながら北流する。下国重・上国重・竹内・稲荷・舟橋・新吉島・仏生寺・海老江・竹鼻・立野・古海老江・葦高・東葦原・白髭の13村が明治22（1889）年に合併し上新川郡舟橋村となった。明治29（1896）年に上新川郡を上・中の２郡に分割したため舟橋村は中新川郡に属した。

村の北部には富山市新庄で北陸街道から分岐し上市へ抜ける上市往来（県道４号線）が東西方向に走る。県道４号線に並行して富山地方鉄道本線が走り、立山町寺田駅で立山線が分岐し南方向に走る。

２．遺跡の分布状況

古墳時代以前

旧石器時代は上段台地上に立地する立山町白岩薮ノ上遺跡や吉峰遺跡で確認されている。当村域では、浦田遺跡でナイフ形石器の可能性があるものが出土する。

縄文時代は当村域にある各遺跡から遺物が出土するが遺構は確認されていない。周辺には富山市水橋金広・中馬場遺跡、立山町二ッ塚遺跡、五郎丸遺跡、利田横枕遺跡等がある。

弥生時代は白岩川流域を中心に遺跡が分布し、浦田遺跡、利田横枕遺跡、竹内東芦原遺跡、仏生寺城跡、富山市新堀西遺跡、上市町放士ヶ瀬北遺跡、江上遺跡群等がある。浦田遺跡、利田横枕遺跡、仏生寺城跡では中期の土器が出土する。放士ヶ瀬北遺跡や立山町浦田遺跡等では中部高地系土器である栗林式が出土する。浦田遺跡等では後期初頭から中葉にかけての東北系土器であるの天王山系土器が出土する。

古墳時代は弥生時代に引きつづき白岩川流域に遺跡が分布し、またこの流域に多くの古墳が築造される。当村内に所在する竹内天神堂遺跡は古墳時代前期の前方後方墳で全長38m、高さ８ｍを測る。そのほかに、中期には富山市清水堂古墳（円墳）、若王子古墳（円墳）、宮塚古墳（方墳）、立山町稚児塚古墳（円墳）、塚越古墳（円墳）がある。集落は仏生寺城跡、富山市新堀西遺跡、立山町利田横枕遺跡等がある。

古代

古代の当村域は東大寺領大薮荘の有力な比定地になっている（藤田1998他）。当該期の遺跡として仏生寺城跡、浦田遺跡、竹内東芦原遺跡等があり、８世紀後半から10世紀代にかけて存続する。仏生寺城跡では竪穴式住居・掘立柱建物を検出し、底面に「吉万呂」と墨書した須恵器杯Ｂが出土した。浦田遺跡では掘立柱建物・溝等、竹内東芦原遺跡では畝状遺構を検出した。また、立山町辻遺跡では「里正」木簡が出土した。

中世以降

中世前期の遺跡はあまり確認できず、仏生寺城跡でその前身となる土坑等を検出している。中世後期になると当村域は高野荘に属し、その中心的施設として仏生寺城が築かれる。仏生寺城の成立は15世紀中ごろと推定される。規模は越中志徴等によると、東西六十間（108m）、南北九十間（162m）、堀幅五間（９ｍ）とする。縄張りは連郭式平城と推定されている（高岡1980）。城主は細川曾十郎（宗十郎・惣十郎）が知られている。付近には関連施設として竹内館跡や馬場を白岩川の対岸に築いたとすることから中馬場等の地名の由来になったとする。仏生寺城は16世紀には廃絶する。　（岡田一広）

第３図　遺跡地図（１／１万５千）

01. 竹内遺跡、02. 仏生寺城跡、03. 竹内神明社前遺跡、04. 竹内天神堂古墳、05. 国重遺跡、06. 竹内館跡、07. 舟橋Ⅰ遺跡、08. 小平遺跡
09. 浦田遺跡、10. 塚越Ⅰ遺跡、11. 竹内東芦原遺跡、12. 海老江遺跡、13. 浦田馬渡し遺跡、14. 浦田西反遺跡、15. 東芦原西角堂遺跡
16. 東芦原遺跡、17. 鉾ノ木Ⅰ遺跡、18. 浦田石田遺跡、19. 利田横枕遺跡、20. 横沢Ⅱ遺跡、21. 古海老江遺跡、22. 横沢Ⅰ遺跡
23. 金尾新西遺跡、24. 新堀東遺跡、25. 水橋金広・中馬場遺跡、26. 新堀西遺跡、27. 新堀遺跡、28. 新堀Ⅱ遺跡、29. 清水堂Ｃ遺跡
30. 清水堂宗平邸遺跡、31. 清水堂南遺跡、32. 放士ヶ瀬北遺跡、33. 放士ヶ瀬南遺跡、34. 放士ヶ瀬西遺跡、35. 塚越３遺跡、36. 塚越古墳
37. 塚越Ⅱ遺跡、38. 鉾ノ木Ⅱ遺跡、39. 五郎丸遺跡、40. 浦田柳町遺跡、41. 大明神経塚、42. 寺田三十刈遺跡、43. 浦田前田遺跡
44. 稚子塚古墳、45. 瓢塚、46. 服部塚、47. 大薮塚、48. 前田経塚、49. 二ッ塚畑田遺跡、50. 若林階子田遺跡、51. 若林大丸遺跡
52. 二ッ塚遺跡、53. 二ッ塚経塚、54. 寺田東大野遺跡

第２章　調査の成果

第１節　調査概観

１．発掘調査の経過

調査対象地

調査対象地は住宅団地造成に伴う道路部分の788㎡である。試掘調査結果から東西方向の流路を確認しており、富山県埋蔵文化財センターと舟橋村が協議し、調査対象地周辺を含めてこの流路の全体の検出をすることにした。周辺を含めて調査面積は1,239㎡である。遺構掘削は調査対象地のみとし、流路は約30㎝の段下げに止め、２箇所の断面観察用の断割りを実施することにした。

現地調査

現地調査は、平成25年８月26日から同年10月３日にかけて実施した。現地調査事務所設営・資材搬入等の準備工の後、８月28日からバックホウによる重機掘削を東側から実施した。９月４日より重機掘削が終った箇所から人力による遺構検出を実施した。９月18日より遺構掘削を開始し、９月27日にラジコンヘリコプターで全景を撮影した。全景撮影後、自然流路ＳＤ01・02と井戸ＳＥ02の断割りをバックホウで実施し、10月５日に現地調査を完了した。調査期間中の９月25日に舟橋小学校の児童を対象に現地見学会を実施した。

写真撮影はは中判・35㎜判のカラー・モノクロネガフィルムおよび35㎜フルサイズデジタルカメラ（3680万画素）で記録した。測量はトータルステーション等で実施した。

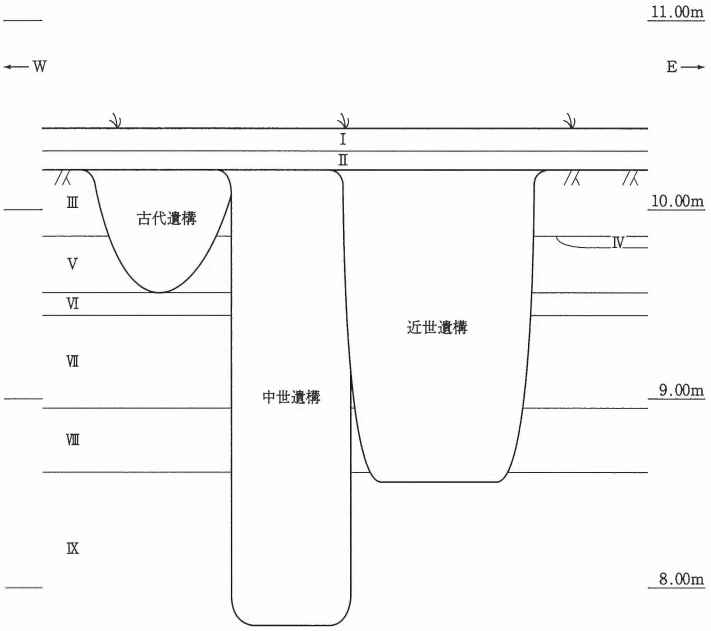
整理作業

整理作業は、平成25年８月26日から翌26年３月25日まで実施した。遺物の水洗は一部を現地調査事務所で実施し、それ以降の作業は株式会社エイ・テック（本社；富山県高岡市）で実施した。井戸ＳＥ01・02における底面の土壌サンプルを現地で採取し、フローテーション法で土壌洗浄し種子等の植物遺体を採取した（第２章第４節参照）。報告書掲載遺物は実測後Adobe Illustrator®にてデジタルトレースした。遺物写真は中判2170万画素のデジタルスチールカメラで撮影した。報告書編集はAdobe Creative Suite®で実施した。

２．調査の概要

基本層序

現在の耕作土である暗褐色細粒砂質シルト（Ⅰ層）の下は、地山である明黄褐色細粒砂質シルト～粗粒砂（Ⅲ層）で、古代以降の遺構検出面はⅢ層上面である。Ⅰ層とⅢ層の間には部分的に明黄褐色細粒砂質シルト（Ⅱ層）が堆積しており、調査地区の東側で主に検出した。安政５（1858）年の飛越地震に伴う洪水堆積土とも考えられるが、部分的であることから近年の圃場整備時の客土の可能性もある。また、Ⅲ層下で調



〔基本層序〕

Ⅰ層	現代耕作土	暗褐色細粒砂質シルト
Ⅱ層	洪水堆積土？	明黄褐色細粒砂質シルト
Ⅲ層	地山	明黄褐色細粒砂質シルト～中粒砂
Ⅳ層	地山	灰黄褐色細粒砂質シルト
Ⅴ層	地山	浅黄橙色粘土
Ⅵ層	地山	黒色細粒砂質シルト
Ⅶ層	地山	灰オリーブ色中粒砂
Ⅷ層	地山	明青灰色粘土質シルト
Ⅸ層	地山	明青灰色中粒砂質シルト

第４図　基本層序模式図

査地区東側においてのみ灰黄褐色細粒砂質シルト（Ⅳ層）があり、それ以下は総じて浅黄橙色粘土（Ⅴ層）、黒色細粒砂質シルト（Ⅵ層）、灰オリーブ色中粒砂（Ⅶ層）、明青灰色粘土質シルト（Ⅷ層）、明青灰色中粒砂質シルト（Ⅸ層）の順に堆積する。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

井戸２基（ＳＥ01・02）

自然流路・溝11条（ＳＤ01～11）

土坑４基（ＳＫ01～04）

ピット２基（ＳＰ01・02）

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器類；弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、珠洲、八尾、越前、瀬戸美濃、白磁、天目茶椀、青磁、越中瀬戸、肥前、伊万里

土製品；鞴の羽口

木製品；部材

鉄滓；椀型滓

石製品；石棒、管玉未製品、行火、砥石、石臼

グリッド

調査地区のグリッドは世界測地系（測地成果2011）の平面直角座標系の第Ⅶ座標系（原点は北緯36° 00′ 00″ ・東経137° 10′ 00″ ）に合わせた。東西をＸ軸、南北をＹ軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、Ｘ＝１，Ｙ＝１の地点は、原点より東へ12.455km、北へ78.160km向かった位置である。一辺５ｍ四方を一区画としてグリッドを割付け、メッシュを表示した。

（岡田一広）

第2節　遺　　構

1．井戸

SE01

調査地区の西側（3，10）区で検出した。平面形は円形で、規模は直径0.70m、深さ0.99mを測る。出土した遺物は、珠洲、木製品（部材）である。

SE02

調査地区の北東側（12，7）区で検出した。平面形は円形で、規模は直径0.88m、深さ2.08mを測る。出土した遺物は、土師器、須恵器、珠洲、越前、伊万里である。

2．自然流路・溝

SD01

調査地区の南側（2～18，3～7）区で検出した。東西方向に走る自然流路である。規模は長さ77.85m以上、幅9.53m、深さ1.54mを測り、SD03・08、SK04を切り、SD02・09～11に切られる。東側および西側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、珠洲、八尾、瓦質土器、瀬戸美濃、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前、伊万里、石製品（砥石・行火）、木製品（板材・部材）である。

SD02

調査地区の西側（5～7，3～8）区で検出した。南北方向に走る自然流路である。規模は長さ27.22m以上、幅7.64m、深さ1.46mを測り、SD01を切る。南側および北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器、製塩土器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、石製品（砥石）、木製品（板材）である。

SD03

調査地区の東側（11～14，3～6）区で検出した。北東～南西方向に走る溝である。規模は長さ18.66m以上、幅7.67m、深さ0.36～0.46mを測り、SD01に切られる。北東側および南西側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器である。

SD04

調査地区の北部（3～4，12）区で検出した。北西～南東方向に走る自然流路である。規模は長さ5.34m以上、幅3.52m、深さ1.42m以上を測る。北西側および南東側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、珠洲、土製品（鞴の羽口）、木製品（板材）である。

SD05

調査地区の西側（3，8）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ3.58m、幅0.43m、深さ0.10mを測る。遺物は出土していない。

SD06

調査地区の北側（3，11）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ2.53m、幅0.64m、深さ0.24mを測る。出土した遺物は、土師器である。

SD07

調査地区の北側（2～3，12）区で検出した。東西方向から北西～南東方向に緩く湾曲する溝である。規模は長さ4.65m、幅0.72m、深さ0.26～0.65mを測る。遺物は出土していない。

SD08

調査地区の西側（2～7，7・8）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ22.80m以上、幅1.05m、深さ0.40mを測り、SD01・02・11に切られる。東側および西側は調査地区外へ延びる。（7，7）区でSD01に切られておりそれより東側は明確に検出できなかったが、（10，5・6）区でSD01の裁割にて断面で確認することができ、裁割までの長さを含めると、38.0m以上となる。遺物は出土していない。

SD09

調査地区の南側（9～10，4～5）区で検出した。南北方向から東西方向に屈曲する溝である。規模は長さ9.17m以上、幅0.43m、深さ0.13mを測り、SD01を切る。遺物は出土していない。

SD10

調査地区の中央部（9～10，6～7）区で検出した。北西～南東方向から南北方向に屈曲する溝である。規模は長さ5.27m以上、最大検出幅1.32m、深さ0.32mを測り、SD01を切る。北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、須恵器である。

SD11

調査地区の西側（3～4，5～8）区で検出した。南北方向に走る溝である。規模は長さ15.49m以上、幅2.44m、深さ0.75mを測り、SD01を切る。南側および北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、珠洲、越中瀬戸、瀬戸美濃である。

3．土坑

SK01

調査地区の西側（3～4，9）区で検出した。平面形は方形である。長軸3.16m、短軸2.21m、深さ0.29mを測り、東側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器、珠洲、越前、伊万里である。

SK02

調査地区の東側（13，7）区で検出した。平面形は円形で北側は調査区外へ延びる。長軸0.66m、短軸0.39m以上、深さ0.72mを測る。遺物は出土していない。

SK03

調査地区の北側（2，12）区で検出した。部分的な検出のため平面形は不明である。長軸0.86m以上、短軸0.72m以上、深さ0.26mを測る。出土遺物は珠洲である。

SK04

調査区の西側（3，7）区で検出した。平面形は円形である。規模は直径0.58m、深さ0.71mを測り、SD01に切られる。遺物は出土していない。

（吉田有里）

第3節　遺　　物

1．弥生土器

甕　図面07－１～３。弥生時代中期、小松式の甕の底部である。

高杯　図面07－４。弥生時代終末期、白江式の高杯の脚部である。

鉢　図面07－５・６。弥生時代終末期、白江式の鉢である。５は口縁部で、２条の擬凹線を施す。内外面を赤彩する。６は台付鉢の脚部である。

甕　図面07－７。弥生時代終末期、白江式の甕である。口縁部で、５条の擬凹線を施す。

2．古墳時代・古代の土器類

土師器

椀　図面07－８。椀の口縁部である。

甕　図面07－９～12。９は口縁部である。10は口縁部から胴上部にかけてのものである。11・12は底部である。11の底面は回転糸切りである。12の底面は静止糸切りである。

須恵器

杯Ｈ　図面07－13。立ち上がりと受け部をもつ杯身である。底部はヘラ切り後ナデを施す。

杯Ａ　図面07－14～24、図面08－25～28。高台の付かない杯である。14～24は口縁部をロクロナデで形成後底面を回転ヘラ切りする。25～28は底部である。25の底面が回転ヘラ切りで、「浄子」と墨書する。26～28は底面が回転糸切りである。

杯Ｂ　図面08－29～39。高台が付く杯である。29～32・34～38は口縁部をロクロナデで形成後底面を回転ヘラ切りし、高台を貼付ける。33は口縁部である。39はロクロナデで整形し回転糸切りでロクロから切り離し後、ロクロナデで高台を作り出したものである。

杯蓋　図面08－40～50。杯蓋の調整はヘラ切り後天井部の一部をケズリを施し、つまみを貼付けるものを基調とする。つまみは48のみ遺存しており宝珠形である。44は天井部が回転糸切りである。

壺　図面09－51。口縁部外面はハケメ後ロクロナデを施す。

長頸瓶　図面09－52。長頸瓶の口縁部である。

瓶類　図面09－53・54。53は双耳瓶等の胴上部である。外面は自然釉が付着する。53は底部である。

製塩土器　図面09－55～57。深鉢形の製塩土器である。55は胴部である。56・57は底部である。

3．中近世の土器類

珠洲　図面09－58～63、図面10－64～70。58～63は擂鉢である。58～60は口縁部、61は体部、62・63は底部である。64～67は壺である。64～66は口縁部、67は底部である。68～70は甕である。68・69は口縁部、70

は底部である。

八尾　図面10－71。甕の胴部である。

越前　図面10－72・73。72は擂鉢の口縁部である。73は壺の頸部～胴上部にかけてのものである。

瓦質土器　図面11－74。火鉢の胴部である。１条の突帯と印花文を施す。

瀬戸美濃（中世）　図面11－75。皿の底部である。内面は丸ノミでソギ、見込みに菊印花文を施す。

白磁　図面11－76。椀の底部である。見込みは蛇の目釉剥ぎである。

天目茶椀　図面11－77。中国製の天目茶椀である。断面に漆繋ぎ痕がある。

青磁　図面11－78～83。78～81は椀である。78は口縁部で外面に鎬蓮弁文を施す。79～81は底部である。81は見込みに花文を施す。82・83は盤の底部である。

越中瀬戸　図面11－84～96。84～90は皿である。いずれも口縁部を施釉する。86は長石釉、89は鉄釉である。90は鉄釉を施し、釉の掛け具合から灰釉との相掛けのものと推定できる。それ以外は灰釉である。91～93は段重である。92は見込みに菊印花文を施す。94は匣鉢の口縁部である。95は香炉の口縁部である。96は壺の底部である。

瀬戸美濃（近世）　図面12－97・98。97は椀の底部である。98は皿である。

肥前　図面12－99～101。皿である。99は波佐見窯で見込みに目跡が残る。100・101は内野山窯である。

伊万里　図面12－102・103。102は椀の口縁部である。103は皿の底部である。

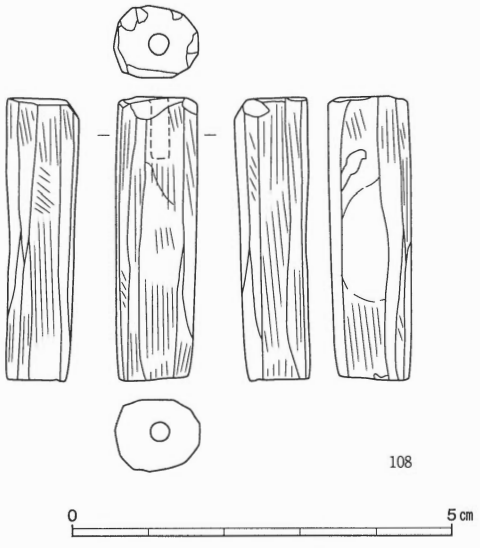
４．その他の遺物

土製品　図面12－104。鞴の羽口の尖端部で外面の一部がガラス質となる。推定外径6.8cm、推定内径1.8cmを測る。出土遺構はＳＤ04である。

木製品　図面12－105。先端にホゾを持つ部材である。全長14.7cm、全幅5.6cm、全厚4.3cmを測る。出土遺構はＳＥ02である

鉄滓　図面12－106。椀型滓である。最大長3.2cm、最大幅4.4cm、最大厚2.3cm、重量45.0ｇを測る。

石製品　第４図－108、図面12－107・109～111。107は石棒で上下端を欠損する。凝灰岩製で、残存長8.1cm、最大幅3.0cm、最大厚4.3cm、重量252.0ｇを測る。出土遺構はＳＤ01である。108は管玉未製品で孔は未貫通である。緑色凝灰岩製で、全長3.8cm、直径1.1cm、孔径0.2cm、重量6.9cmを測る。出土層位は表土である。109は方形の行火である。凝灰岩製で、内面は丸鑿痕があり被熱する。最大高10.2cm、最大幅8.5cm、最大厚4.3cm、壁厚3.2cm、重量356.3ｇを測る。出土遺構はＳＤ01である。110は砥石で下端は欠損する。砂岩製で残存長12.1cm、最大幅10.1cm、最大厚6.7cm、重量1234.9ｇを測る。出土層位は表土である。111は石臼である。出土層位は表土である。　（岡田一広）



第５図　管玉未製品（実大）

No.	出土位置	種別	器種	法量（cm）			胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
				口径	器高	底径					
1	S D01	弥生土器	甕	－	(3.9)	8.5	密	良	にぶい黄橙色	底12.0／12	小松式。
2	包含層	弥生土器	甕	－	(5.4)	8.0	密	良	にぶい黄橙色	底 3.0／12	小松式。
3	S D03	弥生土器	甕	－	(3.7)	8.0	密	良	にぶい黄橙色	底 1.0／12	小松式。
4	S D04	弥生土器	高杯	－	(6.6)	－	密	良	にぶい黄橙色	－	白江式。
5	表土	弥生土器	鉢	17.0	(1.5)	－	密	良	にぶい黄橙色	口 0.2／12	白江式。擬凹線２条。内外面赤彩。
6	S D03	弥生土器	鉢	－	(2.9)	7.5	密	良	浅黄橙色	底12.0／12	白江式。台部。
7	S D03	弥生土器	甕	31.5	(2.9)	－	密	良	にぶい黄橙色	口 0.1／12	白江式。擬凹線５条。
8	表土	土師器	椀	12.0	(2.6)	－	密	やや良	橙色	口 1.0／12	口縁部。
9	S D03	土師器	甕	23.0	(3.6)	－	密	良	灰黄褐色	口 0.8／12	口縁部。外面煤付着。
10	S D03	土師器	甕	23.0	(12.4)	－	密	良	にぶい黄橙色	口 1.1／12	口縁部～胴上部。胴上部外面はカキメ。
11	S D03	土師器	甕	－	(3.7)	7.6	密	良	浅黄橙色	底 9.0／12	底部。底面は回転糸切り。
12	S D03	土師器	甕	－	(2.4)	6.0	密	良	橙色	底12.0／12	底部。底面は静止糸切り。
13	表土	須恵器	杯H	14.0	3.2	7.9	密	良	灰色	口 0.1／12	底部はロクロナデ－ナデ。
14	S D03	須恵器	杯A	12.4	3.8	9.3	密	やや良	灰白色	口 5.0／12	底面は回転ヘラ切り。
15	S D03	須恵器	杯A	12.2	3.5	8.2	密	良	灰色	口 2.4／12	底面は回転ヘラ切り。
16	S D03	須恵器	杯A	12.0	3.7	6.0	密	良	灰色	口 2.0／12	底面は回転ヘラ切り。
17	S D03	須恵器	杯A	12.0	2.9	5.8	密	良	青灰色	口 5.5／12	底面は回転ヘラ切り。
18	S D03	須恵器	杯A	12.0	3.7	6.8	密	良	灰色	口 2.7／12	底面は回転ヘラ切り。
19	S D01	須恵器	杯A	11.8	3.4	8.7	密	良	褐灰色	口 1.5／12	底面は回転ヘラ切り。
20	表土	須恵器	杯A	11.6	3.5	8.4	密	やや良	にぶい黄橙色	口 2.2／12	底面は回転ヘラ切り。
21	S D03	須恵器	杯A	11.6	3.6	8.9	密	良	明緑灰色	口 4.5／12	底面は回転ヘラ切り。
22	S D03	須恵器	杯A	11.4	3.4	7.7	密	良	灰黄褐色	口 8.1／12	底面は回転ヘラ切り。
23	S D03	須恵器	杯A	10.8	3.8	6.5	密	やや良	明オリーブ灰色	口 8.9／12	底面は回転ヘラ切り。
24	S D03	須恵器	杯A	10.8	3.4	7.2	密	良	青灰色	口 4.0／12	底面は回転ヘラ切り。
25	S D03	須恵器	杯A	－	(1.4)	7.2	密	良	灰色	底12.0／12	底部。墨書「浄子」。底面は回転ヘラ切り。
26	S D03	須恵器	杯A	－	(1.2)	6.2	密	良	オリーブ灰色	底12.0／12	底部。底面は回転糸切り。
27	S D03	須恵器	杯A	－	(3.2)	5.4	密	良	灰色	底12.0／12	底部。底面は回転糸切り。
28	地山直上	須恵器	杯A	－	(2.1)	5.2	密	良	灰色	底 5.0／12	底部。底面は回転糸切り。
29	S D03	須恵器	杯B	16.6	6.3	10.2	密	良	灰白色	口 0.1／12	底面は回転ヘラ切り。
30	S D03	須恵器	杯B	15.2	4.2	9.9	密	良	緑灰色	口 0.1／12	底面は回転ヘラ切り。
31	S D03	須恵器	杯B	15.0	5.8	7.2	密	良	灰色	口 1.2／12	底面は回転ヘラ切り。
32	S D01	須恵器	杯B	15.0	3.8	11.0	密	良	緑灰色	口 0.6／12	底面は回転ヘラ切り。
33	S D03	須恵器	杯B	14.8	(5.6)	－	密	良	暗緑灰色	口 4.0／12	口縁部。
34	S D03	須恵器	杯B	14.0	4.5	8.8	密	良	褐灰色	口 1.0／12	底面は回転ヘラ切り。底面にヘラ記号「×」。
35	S D03	須恵器	杯B	12.0	4.1	7.1	密	良	青灰色	口 3.0／12	底面は回転ヘラ切り。
36	S D01	須恵器	杯B	12.0	4.1	8.7	密	良	暗青灰色	口 1.4／12	底面は回転ヘラ切り。側面にヘラ記号「×」。
37	S D03	須恵器	杯B	11.2	3.8	7.4	密	良	灰色	口 5.0／12	底面は回転ヘラ切り。
38	S D03	須恵器	杯B	10.6	3.8	6.6	密	良	青灰色	口 3.0／12	底面は回転ヘラ切り。
39	地山直上	須恵器	杯B	－	(3.8)	6.2	密	良	灰色	底12.0／12	底面は回転糸切り。高台はナデ出す。
40	地山直上	須恵器	杯蓋	16.0	(2.5)	－	密	良	緑灰色	口 0.1／12	つまみ欠損。天井部外面は一部ケズリ。
41	S D04	須恵器	杯蓋	15.2	(1.9)	－	密	良	褐灰色	口 0.9／12	つまみ欠損。
42	S D01	須恵器	杯蓋	14.0	(1.8)	－	密	良	褐灰色	口 0.9／12	つまみ欠損。
43	S D01	須恵器	杯蓋	14.0	(2.1)	－	密	良	灰色	口 0.8／12	つまみ欠損。
44	地山直上	須恵器	杯蓋	12.2	(2.4)	－	密	良	暗青灰色	口 1.1／12	つまみ欠損。天井部外面は回転糸切り－ケズリ。
45	S D03	須恵器	杯蓋	12.0	(1.8)	－	密	良	緑灰色	口 7.8／12	つまみ欠損。天井部外面は一部ケズリ。
46	S D01	須恵器	杯蓋	12.0	(2.3)	－	密	良	灰色	口 1.2／12	つまみ欠損。天井部外面は一部ケズリ。
47	S D01	須恵器	杯蓋	11.6	(2.7)	－	密	良	緑灰色	口 1.8／12	つまみ欠損。天井部外面は一部ケズリ。
48	S D03	須恵器	杯蓋	11.5	3.5	－	密	良	青灰色	口 0.5／12	つまみは宝珠系。天井部外面は一部ケズリ。
49	S D01	須恵器	杯蓋	11.2	(2.2)	－	密	良	暗青灰色	口 2.5／12	つまみ欠損。
50	S D03	須恵器	杯蓋	11.0	(1.1)	－	密	良	褐灰色	口 1.0／12	つまみ欠損。
51	表土	須恵器	壺	19.2	(4.8)	－	密	良	緑灰色	口 0.8／12	口縁部。外面はハケメ後ロクロナデ。

第１表　土器類観察表〔１〕

No.	出土位置	種別	器種	法量（cm）			胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
				口径	器高	底径					
52	ＳＤ01	須恵器	長頸瓶	6.0	(4.5)	－	密	良	緑灰色	口 1.0／12	口縁部。
53	ＳＤ03	須恵器	瓶類	－	(10.9)	－	密	良	オリーブ黄色	－	胴上部。
54	ＳＤ01	須恵器	瓶類	－	(4.3)	9.0	密	良	灰色	底 4.0／12	底部。底面はナデ。
55	ＳＤ03	製塩土器	深鉢	－	(5.1)	－	やや密	良	橙色	－	胴部。
56	ＳＤ03	製塩土器	深鉢	－	(1.6)	12.0	やや密	良	橙色	底 1.8／12	底部。
57	ＳＤ03	製塩土器	深鉢	－	(2.3)	10.6	密	良	橙色	底 0.1／12	底部。
58	ＳＤ01	珠洲	すり鉢	17.0	(6.2)	－	密	良	青灰色	口 2.0／12	口縁部。
59	ＳＤ01	珠洲	すり鉢	27.3	(4.1)	－	密	良	青灰色	口 0.4／12	口縁部。オロシ目幅0.7cmに６条。
60	ＳＤ01	珠洲	すり鉢	39.0	(7.4)	－	密	良	青灰色	口 0.5／12	口縁部。オロシ目幅2.0cmに10条。口縁部に波状文。
61	ＳＤ01	珠洲	すり鉢	－	(8.1)	－	密	良	緑灰色	－	胴部。オロシ目幅3.2cmに12条。
62	地山直上	珠洲	すり鉢	－	(3.3)	10.2	密	やや良	灰白色	底 1.0／12	底部。底面はナデ。オロシ目幅1.1cmに11条。
63	ＳＤ02	珠洲	すり鉢	－	(4.1)	8.0	密	良	暗青灰色	底 5.0／12	底部。底面は静止糸切り。
64	表土	珠洲	壺	20.6	(5.3)	－	密	良	青灰色	口 0.8／12	口縁部～頸部。
65	表土	珠洲	壺	21.0	(3.8)	－	密	良	灰色	口 1.1／12	口縁部。
66	ＳＤ11	珠洲	壺	19.2	(3.7)	－	密	良	青灰色	口 0.9／12	口縁部。
67	表土	珠洲	壺	－	(5.5)	19.8	密	良	青灰色	底 1.4／12	底部。
68	ＳＤ01	珠洲	甕	－	(7.7)	－	密	良	暗青灰色	－	口縁部
69	ＳＥ01	珠洲	甕	－	(6.9)	－	密	良	緑灰色	－	口縁部
70	ＳＫ03	珠洲	甕	－	(6.3)	21.2	密	良	青灰色	底 1.8／12	底部。底面はナデ＋離れ砂痕。
71	ＳＤ01	八尾	甕	－	(6.3)	－	密	良	灰白色	－	胴部。外面に自然釉付着。
72	ＳＥ02	越前	すり鉢	38.6	(9.9)	－	密	良	にぶい黄橙色	口 2.3／12	口縁部。オロシ目幅3.0cmに10条。
73	ＳＥ02	越前	壺	－	(7.7)	－	密	良	暗褐色	－	頸部～胴上部。
74	ＳＤ01	瓦質土器	火鉢	－	(4.8)	－	密	良	褐灰色	－	外面に印花文。
75	ＳＤ01	瀬戸美濃	皿	－	(1.3)	5.3	密	良	明緑灰色	底12.0／12	内面は丸ノミでソギ、凹みに灰釉。見込みは菊印花文。
76	表土	白磁	椀	－	(2.7)	4.0	密	良	灰白色	底 5.0／12	底部。削り出し高台。見込みは蛇の目釉剥ぎ。高台は露胎。
77	ＳＥ02	天目茶椀	椀	10.8	(5.5)	－	密	良	黒色	口 1.2／12	中国製。底部外面は錆釉、他は鉄釉施釉。
78	表土	青磁	椀	15.0	(3.6)	－	密	良	灰白色	口 0.1／12	龍泉窯。外面に鎬蓮弁文。
79	ＳＤ01	青磁	椀	－	(2.3)	5.6	密	良	灰色	底 0.1／12	底部。削り出し高台。見込みに花文。高台内部は露胎。
80	ＳＤ01	青磁	椀	－	(2.8)	5.6	密	良	灰オリーブ色	底 5.5／12	底部。削り出し高台。高台内部は露胎。
81	地山直上	青磁	椀	－	(4.0)	5.0	密	良	オリーブ灰色	底 4.0／12	底部。削り出し高台。高台内部は露胎。
82	表土	青磁	盤	－	(3.1)	13.0	密	良	オリーブ灰色	底 1.8／12	底部。削り出し高台。高台内部は露胎。
83	ＳＤ01	青磁	盤	－	(2.7)	12.0	密	良	オリーブ灰色	底 1.0／12	底部。削り出し高台。高台内部は露胎。
84	表土	越中瀬戸	皿	14.0	3.2	5.2	密	良	橙色	口 0.7／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
85	ＳＤ01	越中瀬戸	皿	11.1	2.5	3.7	密	良	赤褐色	口 2.5／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
86	ＳＤ01	越中瀬戸	皿	11.0	2.5	3.8	密	良	明赤褐色	口 3.0／12	削り出し高台。口縁部に長石釉施釉。見込み・高台は露胎。
87	ＳＤ01	越中瀬戸	皿	11.0	2.5	4.6	密	良	にぶい黄橙色	口 2.0／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
88	ＳＤ01	越中瀬戸	皿	10.0	2.1	3.8	密	良	灰黄褐色	口 0.2／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
89	ＳＤ11	越中瀬戸	皿	－	(2.8)	5.2	密	良	にぶい黄橙色	底 6.0／12	削り出し高台。内面および口縁部外面に鉄釉施釉。
90	ＳＤ01	越中瀬戸	皿	－	(2.2)	4.2	密	良	灰黄褐色	底 6.0／12	削り出し高台。内外面の一部に鉄釉施釉。灰釉との掛合か。
91	ＳＤ01	越中瀬戸	段重	11.0	2.9	6.0	密	良	灰黄褐色	口 4.0／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
92	ＳＤ01	越中瀬戸	段重	10.0	3.2	4.8	密	良	にぶい黄橙色	口12.0／12	削り出し高台。見込みに菊印花文。鉄釉施釉。高台は露胎。
93	ＳＤ02	越中瀬戸	段重	－	(2.4)	5.2	密	良	灰白色	底 6.0／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉。見込み・高台は露胎。
94	ＳＤ01	越中瀬戸	匣鉢	15.4	(4.6)	－	密	良	灰白色	口 2.0／12	口縁部内外面に鉛釉施釉。
95	表土	越中瀬戸	香炉	8.8	(4.3)	－	密	良	にぶい黄橙色	口 2.2／12	外面および口縁部内面に灰釉施釉。
96	ＳＤ01	越中瀬戸	壺	－	(1.8)	6.0	密	良	にぶい黄橙色	底 6.0／12	底面回転糸切り。
97	ＳＤ11	瀬戸美濃	椀	－	(3.8)	4.2	密	良	明緑灰色	底11.0／12	削り出し高台。畳付に離れ砂。内外面に透明釉施釉。
98	ＳＤ01	瀬戸美濃	皿	11.0	2.4	5.4	密	良	灰オリーブ色	口 0.5／12	削り出し高台。口縁部に灰釉施釉、見込み・高台は露胎。
99	ＳＤ01	肥前	皿	9.7	3.2	2.8	密	良	灰色	口 3.0／12	削り出し高台。口縁部に透明釉施釉。高台は露胎。
100	地山直上	肥前	皿	14.6	(2.2)	－	密	良	緑灰色・灰白色	口 1.2／12	内野山窯。内面銅緑釉、外面長石釉施釉。
101	表土	肥前	皿	－	(2.6)	5.6	密	良	オリーブ灰色	底 3.1／12	内野山窯。蛇の目高台。内面灰釉、外面透明釉施釉。
102	ＳＥ02	伊万里	椀	10.0	(6.0)	－	密	良	灰白色	口 2.0／12	外面呉須網目文、内外面透明釉施釉。
103	ＳＤ02	伊万里	皿	－	(2.4)	7.8	密	良	灰白色	底 2.0／12	内面呉須染付、内外面透明釉施釉。

第２表　土器類観察表〔２〕

第４節　竹内遺跡における中世井戸出土の種実遺体群

資料と分析方法

試料は室町時代の井戸から検出された種実遺体群である。井戸（ＳＥ02）内の堆積物を、オープニング約1.0㎜メッシュの篩で水洗選別によって得られた種実遺体で、水漬けの状態で保管されていた。水洗選別までを現場担当者が行い、筆者は同定作業以降を行った。試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡下で観察し、同定は科、属、種の階級で、主に現生標本との対比で行った。

同定結果と分類群の特徴

同定の結果、木本が２分類群、草本が17分類群の合計19分類群が同定された。このうち栽培植物は７分類群である。同定結果を第３表にまとめ、同定の根拠となった形態的特徴を第４表に、また主要な分類群については写真をそれぞれ示した。計数については、部位のみ表記は完形もしくは概ね２／３以上が残存している個体を示し、部位の後に「半分」と表記されている個体は概ね１／３～２／３程度の残存の個体を、「破片」としている個体は１／３以下のものをそれぞれ示している。

種実遺体群で最も多く検出されたのは草本のタデ属Ａとイネがある。次に多いのがタデ属Ｂやマメ類Ａ・Ｂである。この５分類群で検出された種実遺体群の大半を占めている。他に、木本ではサンショウやキハダが、草本ではエノコログサ属、ホタルイ属、ヒユ属、エノキグサがそれぞれ検出されている。栽培植物ではアサ、ソバ属、ゴマ、ウリ類がある。

検出された分類群のうち木本については、どちらも落葉広葉樹である。キハダは夏緑広葉樹林の主要構成要素になるが、日当たりの良い開地や伐採地、人里などの人為的な影響下で成立する二次林を構成することもある。サンショウは二次林的要素が強い分類群である。草本については大きく水湿地性植物と陸性植物とに分けることができる。水湿地性植物ではホタルイ属の１分類群があり、比較的水深の浅い水田や池の畔などに生育する。陸性植物でエノコログサ属、ヒユ属、エノキグサの３分類群があり、日当たりの良い、やや乾燥している場所に生育する。栽培植物としては、イネ、アサ、ソバ属、マメ類Ａ・Ｂ、ゴマ、ウリ類の７分類群があり、種数において全体の約35％、個体数において約45％を占めている[註1]。イネやマメ類、ソバ属の一部は著しく被熱しており、イネの炭化果実については焼き膨れや焼き太りの個体が多い。これらの栽培植物の中で、ゴマを除く分類群はいずれも中世の遺跡からは普通にみられる分類群である。

所見

種数個数ともに木本が少ないことから、堆積地周辺には森林はなく、日当たりの良い開地であったと考えられる。木本はあっても孤立木程度に分布しており、草本が卓越していたと考えられる。草本では比較的乾燥に強い陸性植物が種数個数共に多いことから、堆積地周辺にはこれらの陸性植物が分布していたと考えられる。その一方で水湿地性植物であるホタルイ属が認められることから、堆積地もしくは周辺にはホタルイ属が生育可能な溝などの水湿地の存在が推定される。

栽培植物には、イネ、アサ、ソバ属、マメ類Ａ・Ｂ、ゴマ、ウリ類といった多様な分類群が検出されている。イネやマメ類、ソバ属については炭化しており、これらの栽培植物が遺跡内で広く利用されていたと考えられる。また、被熱していることから、これらの分類群はＳＥ02周辺に生育していたというよりは、ＳＥ02に人為的に投棄されたか、ＳＥ02周辺から流れ込んだものが堆積した可能性が考えられる。ウリ類については、３個体の粒長が6.5㎜～7.5㎜であり、6.1～8.0㎜のマクワ・シロウリ型に相当する[註2]。全国的に中近

世ではマクワ・シロウリ型が主体となる傾向があることから、整合的である。　（島田亮仁）

註

（1）百分率を示すにあたり、便宜的に破片３を１個体として算出している。

（2）藤下典之　1992　「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間－その種類、渡来、伝播、利用について－」『考古学ジャーナルNo.354』　ニュー・サイエンス社

引用・参考文献

粉川昭平・吉井亮一　1984　「江上遺跡群出土の種実遺体」『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編－』上市町教育委員会

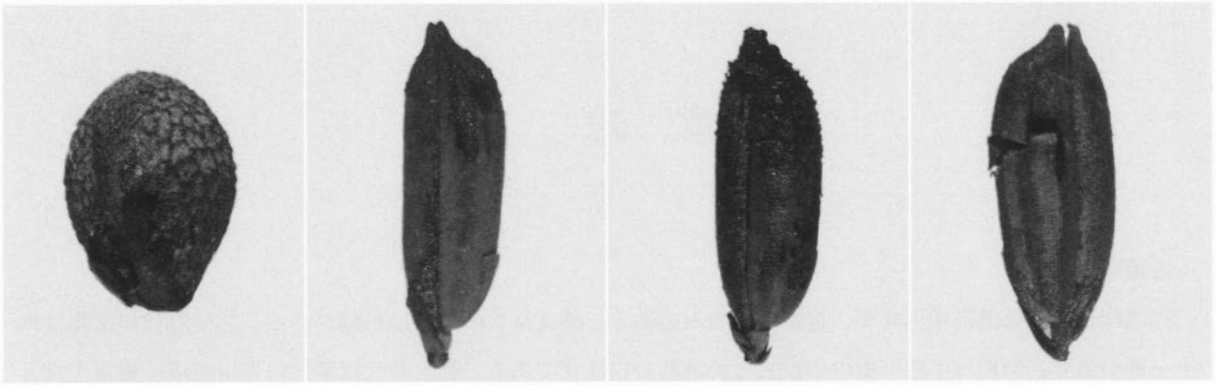
中村　亮仁　2003　「富山県における植物利用－栽培植物の導入期と変革期－」『続文化財学論集』　文化財学論集刊行会

分類群（和名／学名）		部位	竹内遺跡 SE02
木本	arbor		
サンショウ	*Zanthoxylum piperitum* DC.	種子	3
		種子破片	1
キハダ	*Phellodendron amurense* Ruprecht	種子破片	1
草本	herb		
イネ	*Oryza sativa* Linn.	穎	3
		炭化穎	13
		炭化穎破片	5
		炭化果実	42
		炭化果実破片	6
エノコログサ属	*Setaria*	穎	4
イネ科	Gramineae	炭化穎	4
カヤツリグサ属	*Cyperus*	果実	1
ホタルイ属	*Scirpus*	果実	3
アサ	*Cannabis sativa* Linn.	果実	3
		果実破片	8
タデ属A	*Polygonum* A	果実	37
		果実破片	83
タデ属B	*Polygonum* B	果実	13
		果実破片	2
タデ属C	*Polygonum* C	果実	2
タデ属D	*Polygonum* D	果実	5
ソバ属	*Fagopyrum*	果実	1
		果実破片	3
		炭化果実	1
ヒユ属	*Amaranthus*	種子	1
マメ類A	Leguminosae A	炭化種子	2
マメ類B	Leguminosae B	炭化種子	10
		炭化種子半分	1
エノキグサ	*Acalypha australis* Linn.	種子	1
ゴマ	*Sesamum indicum* Linn.	種子半分	1
ウリ類	*Cucumis melo* Linn.	種子	2
		種子未成熟	1
合計	Total		263

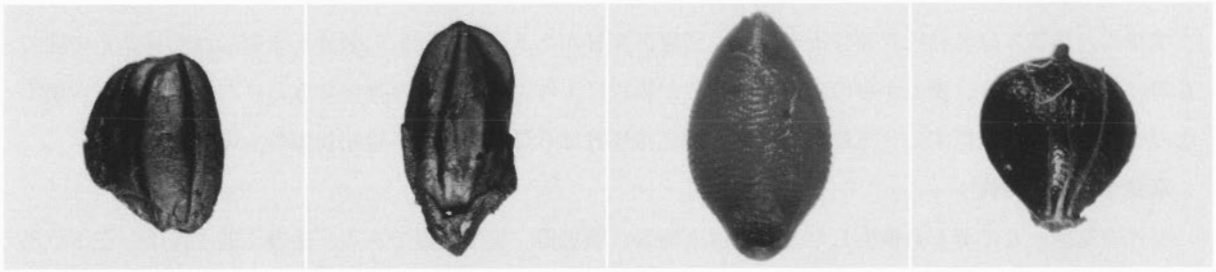
第３表　種実同定結果一覧

樹木　arbor
サンショウ　(*Zanthoxylum piperitum* DC.)　種子；種子は黒色で、倒卵形ないし楕円形を呈する。断面は卵形で、側面には１／３程度の短いヘソがある。表目には網目模様がある。長さ3.8～4.2㎜、幅2.5～3.2㎜である。
キハダ　(*Phellodendron amurense* Ruprecht)　種子破片；種子の破片で、黒色を呈し、表面には微細な網目がみられる。
草本　herb
イネ　(*Oryza sativa* Linn.)　穎・炭化穎・炭化果実；穎は淡褐色～茶褐色で、炭化穎は黒色を呈する。穎・炭化穎は倒卵形を呈し、基部には果実序柄があり、表面には顆粒状突起が規則的に並ぶ。穎（長さ×幅㎜）8.4×3.1,8.8×3.3、炭化穎（長さ×幅㎜）6.1×3.8,7.2×3.4,7.7×3.1,7.7×3.2,8.5×3.2,9.0×2.7,9.1×3.4,9.3×3.9,9.5×3.2,9.8×3.3。炭化果実は黒色で、楕円形を呈する。表面には長軸方向に数条の溝が走る。長さ×幅㎜は4.1×2.7,4.3×2.4,4.3×2.5,4.3×3.6,4.6×2.5,4.8×2.4,4.7×2.5,4.7×2.8,4.8×3.8,5.0×2.6,5.4×3.2,5.6×3.5,6.0×3.2。
エノコログサ属　(*Setaria*)　穎；穎は黄褐色で、卵形を呈する。断面は片凸レンズ形を呈する。表面は横方向に微細な隆起がみられる。長さ2.4～2.6㎜、幅1.5㎜である。
イネ科　(Gramineae)　炭化穎；炭化穎は黒色で、広卵形を呈する。断面は半円形を呈し、表面には縦方向に筋状の模様がみられる。長さ2.4～2.5㎜、幅1.6～2.0㎜である。
カヤツリグサ属　(*Cyperus*)　果実；果実は黒褐色で、倒卵形を呈する。断面は三角形を呈する。長さ2.3㎜、幅1.5㎜である。
ホタルイ属　(*Scirpus*)　果実；果実は黒色で、広倒卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、表面には横方向に微細な隆起がみられる。基部には針状の付属物がある。長さ2.0～2.1㎜、幅1.9㎜である。
アサ　(*Cannabis sativa* Linn.)　果実；果実は茶褐色で、広倒卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、基部に円形のヘソがある。表面には微細な網目模様がみられる。長さ3.8～4.6㎜、幅3.2～3.8㎜である。
タデ属A・B・C・D　(*Polygonum* A・B・C・D)　果実；タデ属Aは黒褐色で、広卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、基部には紐状の付属物がある。長さ2.4～2.6㎜、幅2.7～3.0㎜である。タデ属Bは黒褐色で卵形～狭卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、基部には果柄が残る。長さ3.1～3.4㎜、幅1.5～1.6㎜である。タデ属Cは黒褐色で、先端が尖る広卵形を呈する。断面は三角形で、表面にはやや光沢がある。長さ3.2㎜、幅2.4㎜である。タデ属Dはタデ属Cより小さいもので、先端が尖る広卵形を呈する。断面は三角形で、表面にはやや光沢がある。長さ2.2～2.3㎜、幅1.4～1.6㎜である。
ソバ属　(*Fagopyrum*)　果実・炭化果実；果実は茶褐色で、先端が尖る卵形を呈する。断面は三角形で稜が発達する。表面には縞状の模様があり、やや粗い。長さ×幅㎜は5.3×3.9,6.8×4.0。炭化果実は黒色で、先端は被熱時に種皮がめくれてている。卵形を呈し、断面は三角形で稜が発達する。。長さ4.5㎜、幅3.1㎜である。
ヒユ属　(*Amaranthus*)　種子；種子は黒色で、円形を呈する。断面は両凸レンズ形である。側面の一端がややくぼむ。表面には光沢がみられる。直径1.4㎜である。
マメ類A・B　(Leguminosae A・B)　炭化種子；A・Bはいずれも炭化している。Aは黒色で、腎形を呈する。断面は楕円形で、一側面には細長いヘソがある。BはAより小さいものである。マメ類A（長さ×幅㎜）6.5×5.1,7.9×5.4、マメ類B4.3×3.3,4.7×2.8,4.8×3.7,5.1×4.3,5.2×3.8,5.7×3.6,5.7×3.7,5.7×3.9,5.8×3.9,6.3×4.3。
エノキグサ　(*Acalypha australis* Linn.)　種子；種子は黒灰色で、卵形を呈する。断面は円形で、表目は粗い。長さ1.9㎜、幅1.4㎜である。
ゴマ　(*Sesamum indicum* Linn.)　種子；種子は縫合線で割れた半分の固体である。黄褐色で、卵形を呈する。表面には微細な網目模様がある。長さ2.7㎜、幅1.7㎜である。
ウリ類　(*Cucumis melo* Linn.)　種子；種子は淡褐色で、狭卵形を呈する。断面は扁平で、上端には「ハ」字状のへこみがある。長さ×幅㎜は6.5×3.6,6.8×3.5,7.5×3.6。

第４表　分類群の記載



1．サンショウ　種子　　2．イネ　穎　　3．イネ　穎　　4．イネ　穎



5．イネ　炭化果実　　6．イネ　炭化果実　　7．エノコログサ属　穎　　8．ホタルイ属　果実

9a．アサ　果実　　9b．同左　　10．タデ属A　果実　　11．タデ属B　果実　　12．タデ属C　果実

13a．マメ類A　炭化種子　　13b．同左　　14a．マメ類B　炭化種子　　14b．同左

15．ソバ属　果実　　16．ヒユ属　種子　　17．ゴマ　種子　　18．ウリ類　種子　　19．ウリ類　種子

1㎜；2~6,13~15,18,19　　1㎜；1,9~12　　0.5㎜；7,8,16　　0.5㎜；17

第6図　竹内遺跡出土の種実遺体群

第３章　総　　括

古墳時代以前

古墳時代以前は遺構検出せず、遺物出土のみである。縄文時代の遺物は石棒がある。弥生時代の遺物は弥生土器があり、時期は中期中葉の小松式と終末期の白江式である。弥生時代以降は白岩川流域で集落が営まれる。これは白岩川の後背湿地を利用した水田耕作と、水運を利用した交通要所であったからと推定できる。古墳時代の遺物は緑色凝灰岩製管玉未製品と須恵器杯Ｈがある。緑色凝灰岩製管玉未製品は形状から中期のものに位置付けでき、表土からの出土ではあるが周辺に玉作工人がいたと推定できる。なお、稚子塚古墳出土の管玉と形状は酷似する（三鍋他1995）。須恵器杯Ｈは６世紀末から７世紀初頭のものである。

奈良から平安時代

古代の遺構として溝１条検出した。遺物は土師器、須恵器、製塩土器である。墨書土器「浄子」が１点出土しており人名と推定できる。図化できる資料は少なかったが製塩土器は一定量出土した。藤田富士夫氏は当村域のほとんどを大藪荘に比定し（藤田1998）、その説に従うと北西隅に近い位置にあたる。今回の調査では大藪荘の比定に関する直接的なものは出土していないが、特に８世紀後半から９世紀初頭にかけての土器群を主体とし10世紀代まで出土しており、荘園の設置から衰退する時期にあたる。今後の周辺の調査を含めて検討していく必要があろう。

中近世

中世の遺構として井戸２基検出した。井戸から出土した珠洲や越前は15世紀後半に位置付けできる。圃場整備前の地籍図と重ねると、ＳＥ01は字名長三郎屋敷に位置する。自然流路ＳＤ02・04は字名長三郎沼に位置しこの屋敷地を囲む堀の可能性がある。また、ＳＥ02は字名堀田であるが区画が広いことから屋敷地の可能性があり、出土した種子の同定から食用植物が多くかつ乾燥に強い植物が含まれることからも推定できよう。

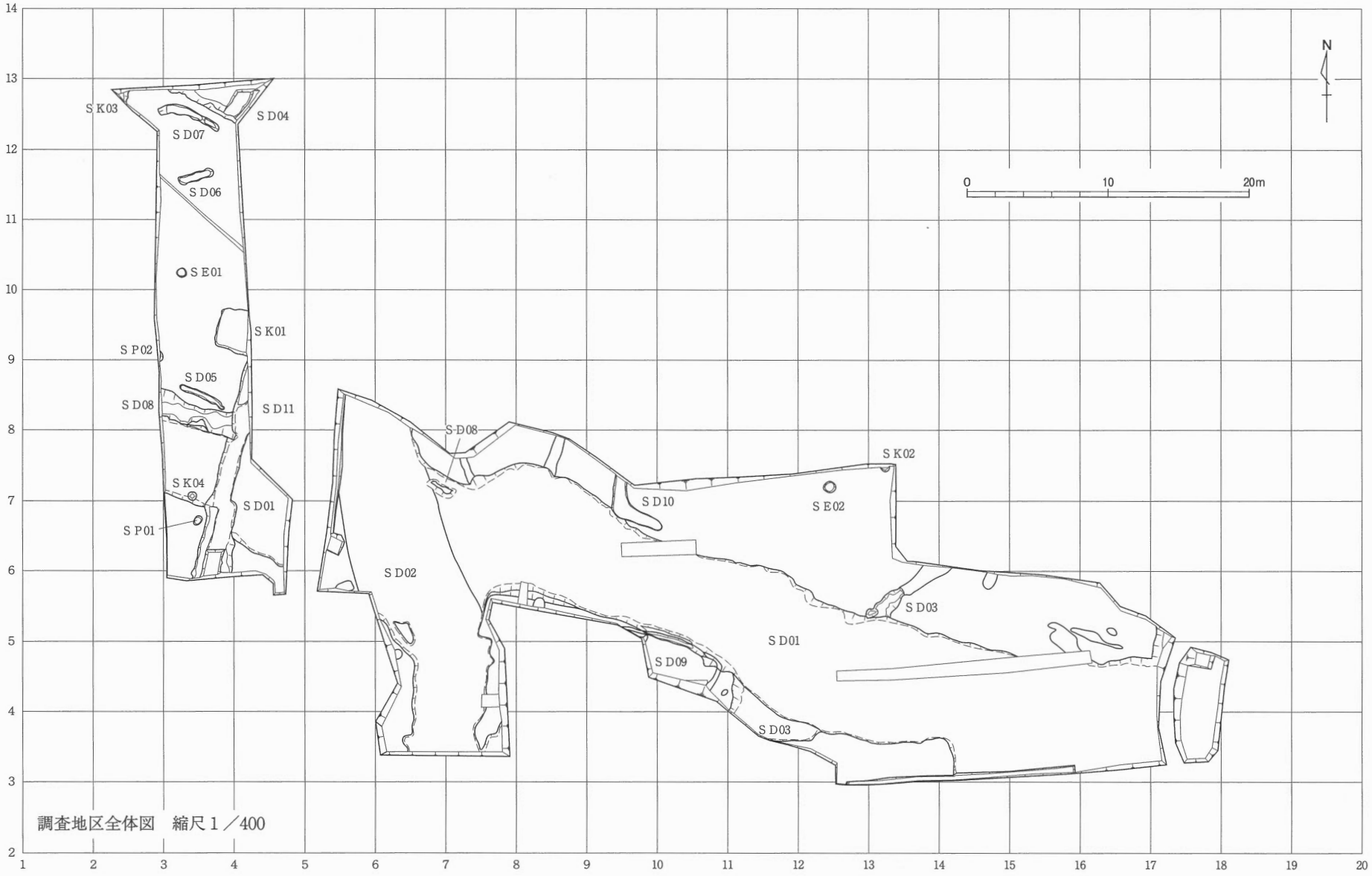
自然流路ＳＤ01の東端部は仏生寺城の主郭と副郭を隔てる南川に繋がっており、ＳＤ01より北側で「屋敷」と付く字名が多く、ＳＤ01の存続が仏生寺城の時期まで遡れば、家臣団屋敷の南側を区画する堀の可能性もあろう。

（岡田一広）

第７図　仏生寺城と周辺の小字名
（１／5,000）

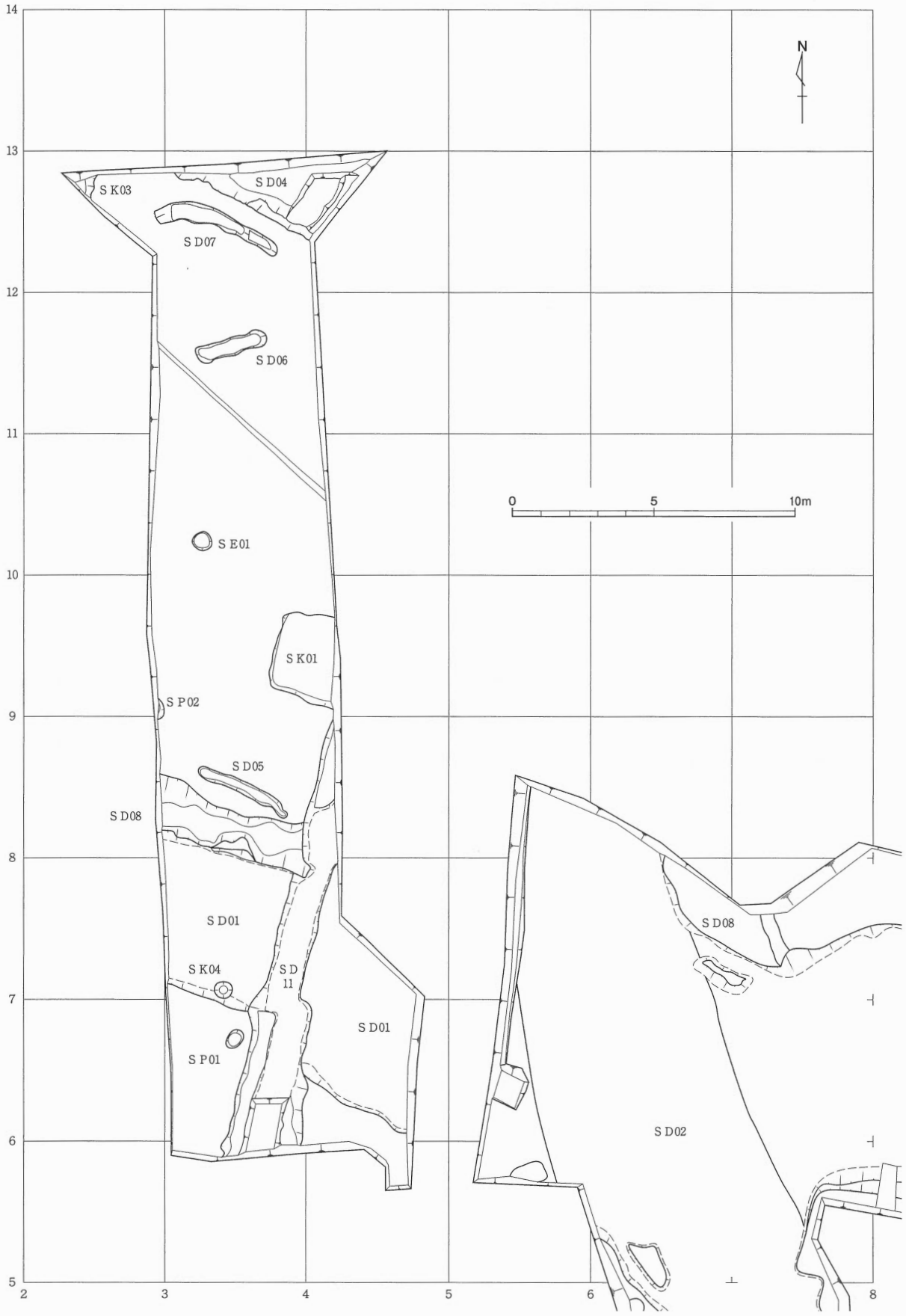
〔参考文献〕

高瀬重雄他　1994　「富山県の地名」『日本歴史地名大系』第16巻　平凡社
高梨清志他　2001　『仏生寺城跡発掘調査報告』　舟橋村教育委員会
藤田富士夫　1998　「東大寺領大藪荘の現地比定と遺跡」『森浩一70の疑問　古代探求』　中央公論社
三鍋秀典他　1995　『稚子塚古墳　－第２次発掘調査報告－』　立山町教育委員会


N
0
10
20m
SK03
SD04
SD07
SD06
SE01
SK01
SP02
SD05
SD08
SD11
SK04
SD01
SP01
SD08
SK02
SD10
SE02
SD02
SD03
SD01
SD09
SD03
調査地区全体図　縮尺１／400

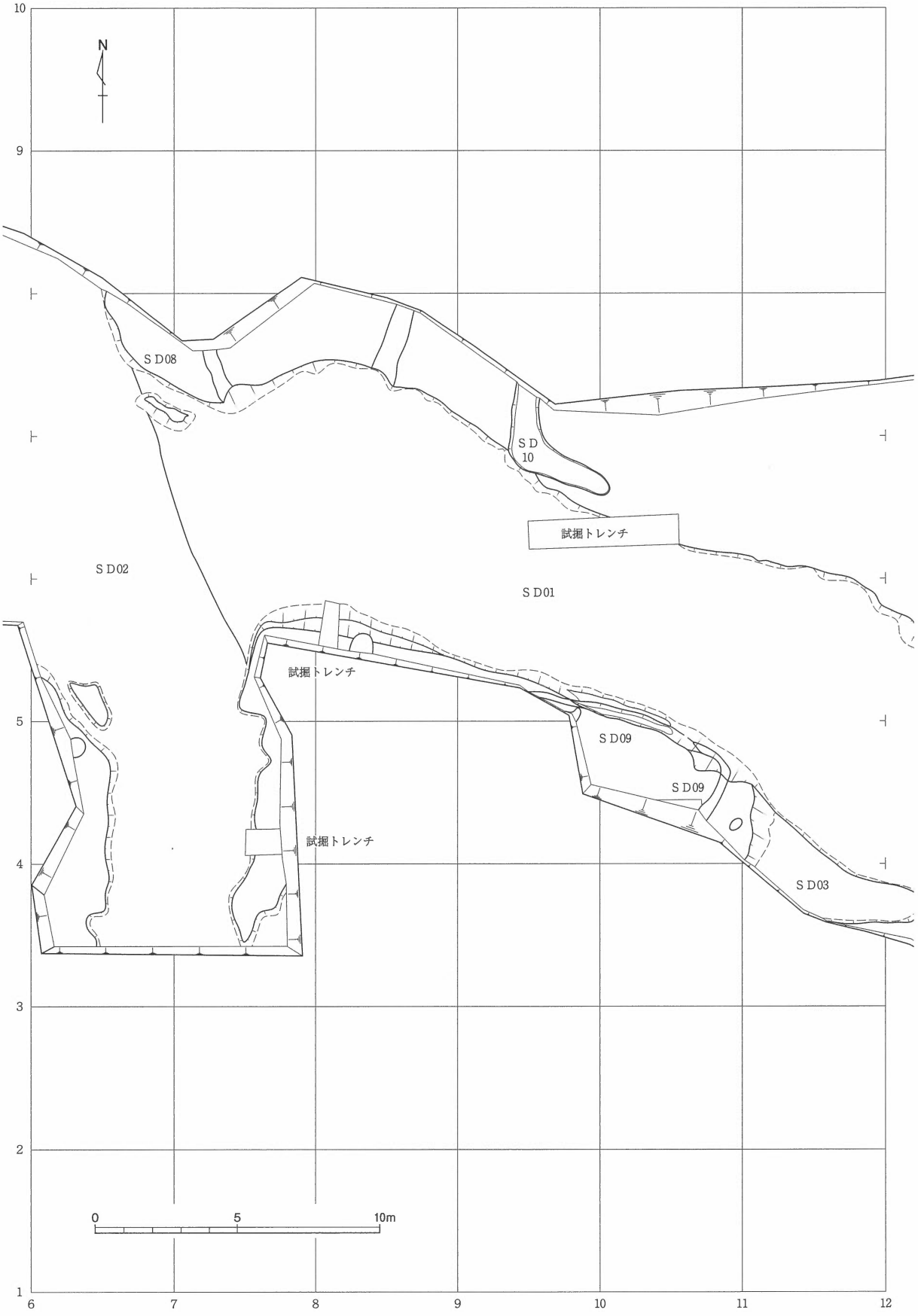
図面○１　遺構実測図

図面〇二　遺構実測図



遺構平面図〔1〕

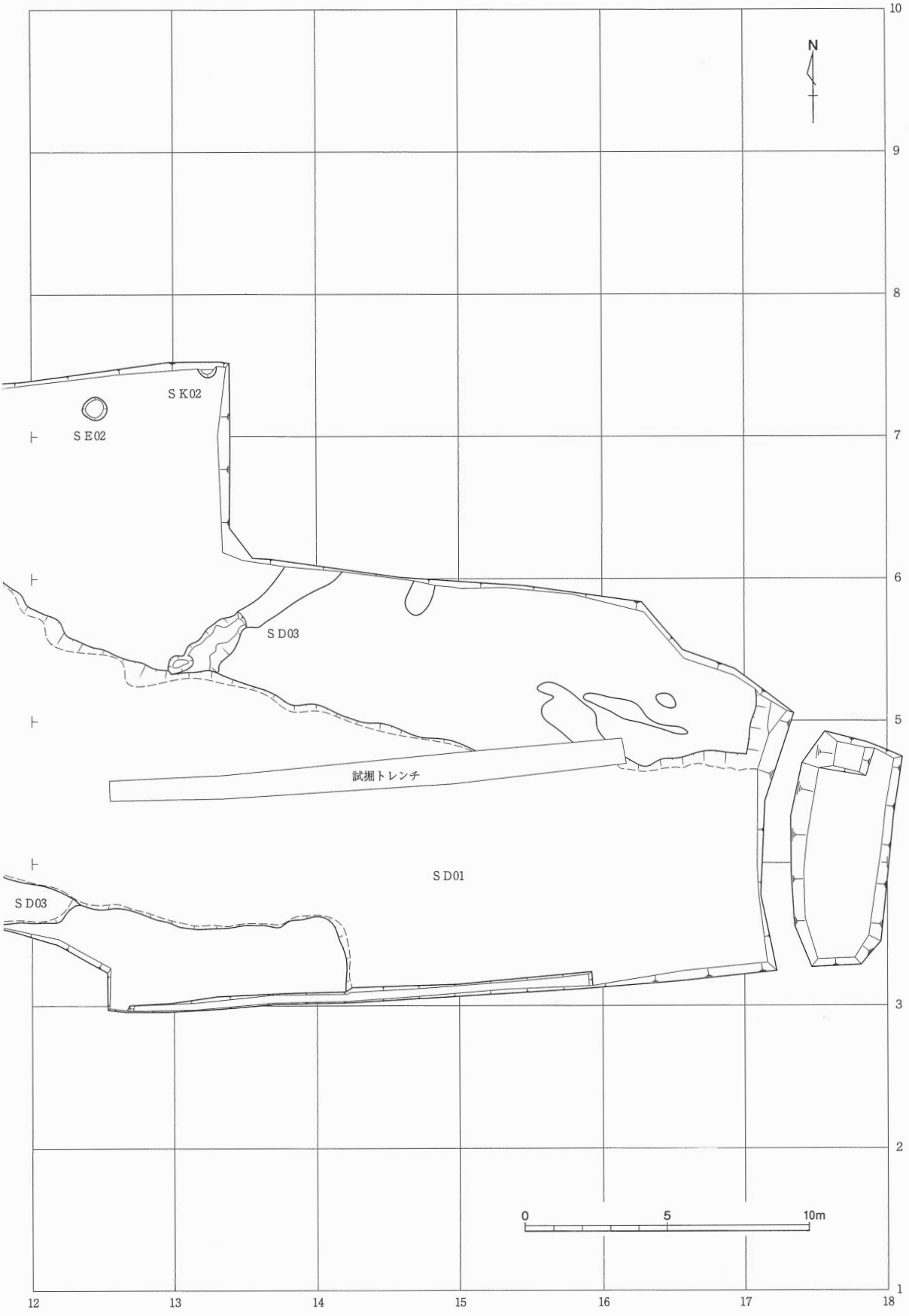
縮尺1／200



遺構平面図〔2〕

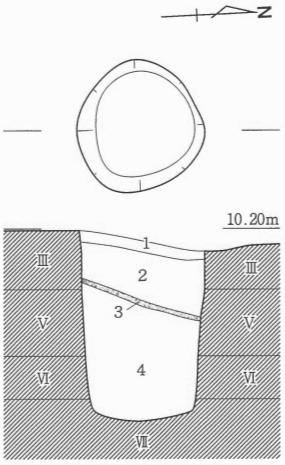
縮尺1／200

図面〇四　遺構実測図

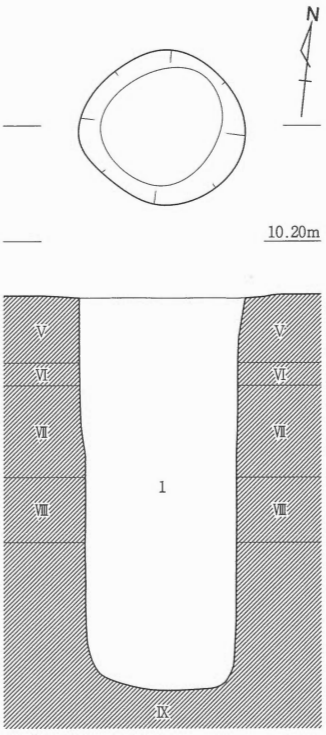


遺構平面図〔3〕

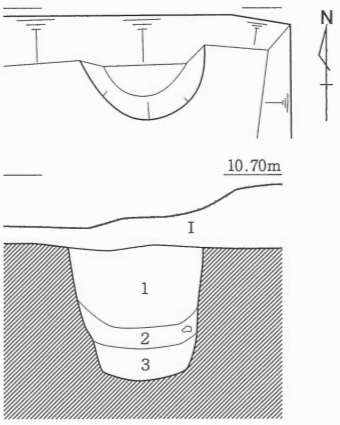
縮尺1／200



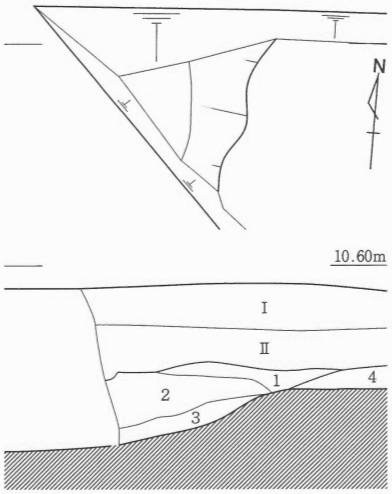
SE01
1．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
　地山ブロック５％含む
2．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
　地山ブロック20％含む
3．炭化物層
4．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
　地山ブロック１％含む



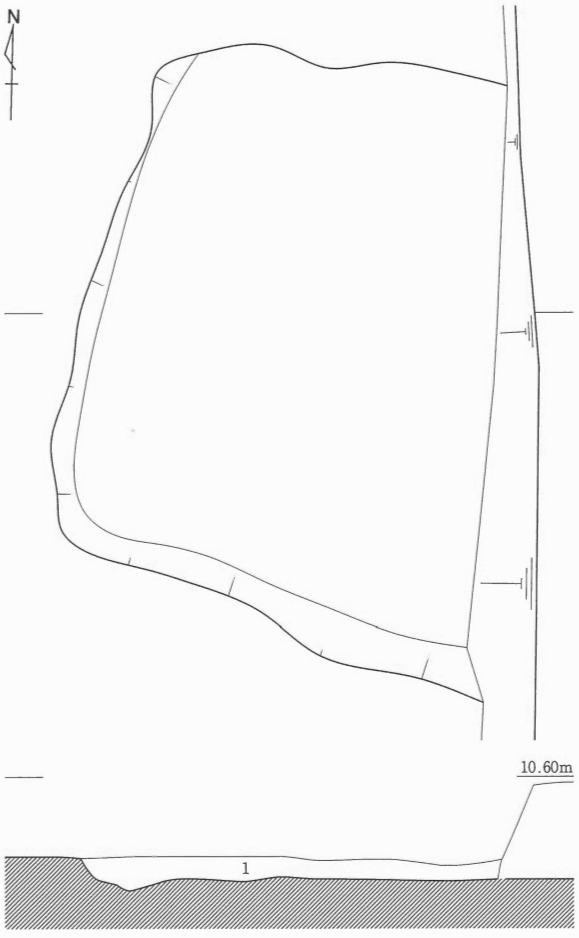
SE02
1．10YR2/2　黒褐色シルト



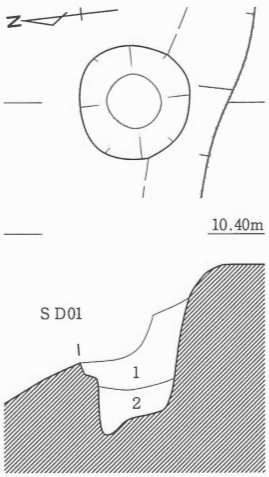
SK02
1．10YR6/8　明黄褐色細粒砂質シルト
　10YR3/1　黒褐色シルト20％含む
2．10YR4/1　褐灰色細粒砂質シルト
3．10YR3/3　暗褐色粘土

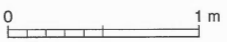


SK03
1．10YR4/1　褐灰色細粒砂質シルト
2．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
3．10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
SD04
4．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
　地山ブロック15％含む



SK01
1．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山ブロック５％含む



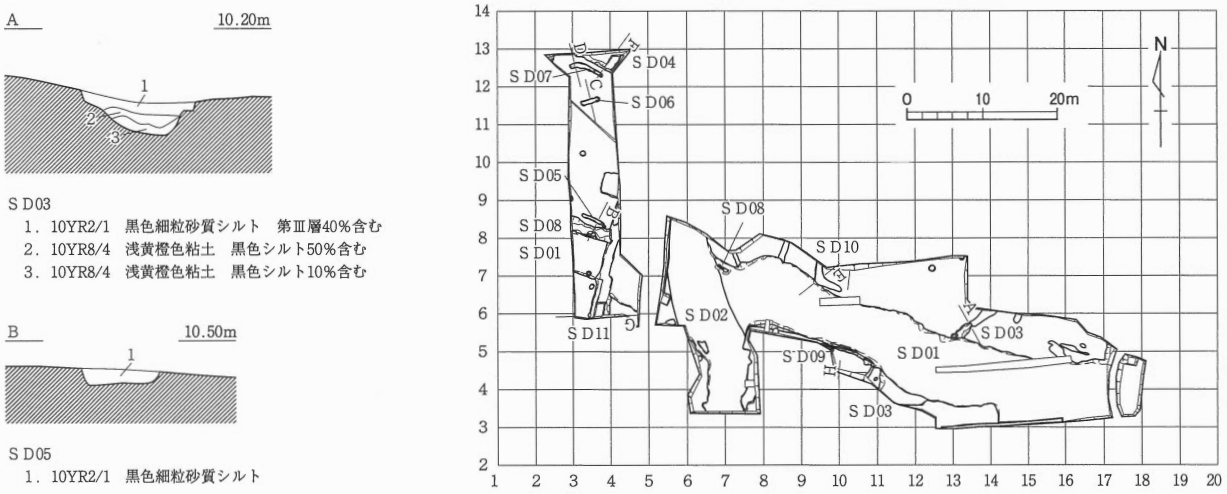


SK02
1．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト　地山ブロック30％含む
2．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト　地山ブロック５％含む

井戸・土坑実測図

縮尺１／40

図面〇六　遺構実測図



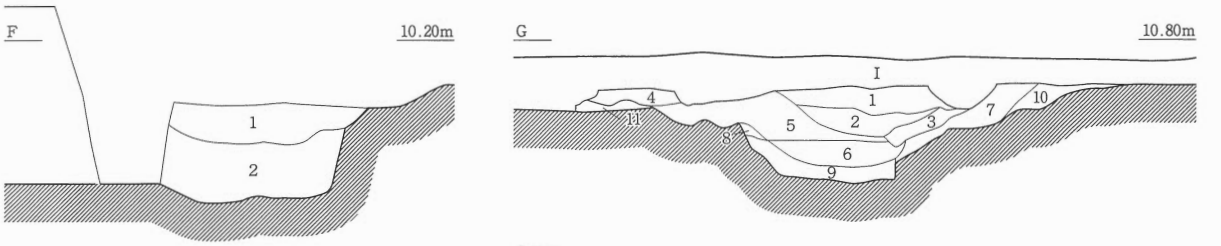
SD03
1．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト　第Ⅲ層40%含む
2．10YR8/4　浅黄橙色粘土　黒色シルト50%含む
3．10YR8/4　浅黄橙色粘土　黒色シルト10%含む

SD05
1．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト

SD06
1．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト

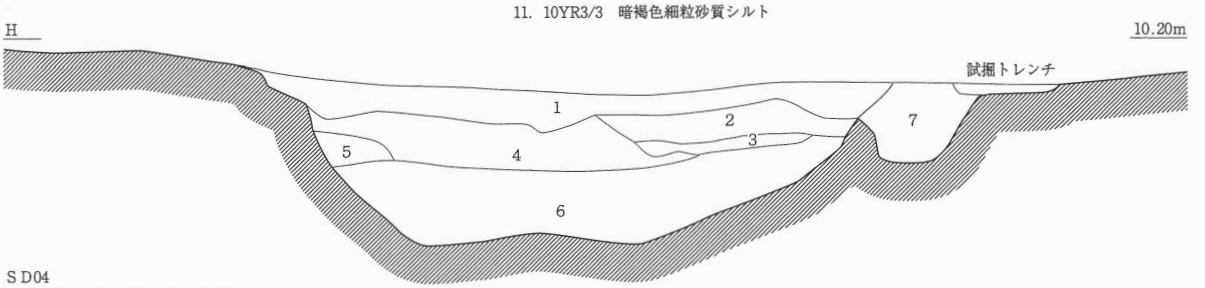
SD07
1．10YR2/1　黒色細粒砂質シルト

SD10
1．10YR4/3　にぶい黄褐色細粒砂質シルト　地山１%含む
2．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山40%含む
3．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山５%含む



SD04
1．10YR4/3　にぶい黄褐色細粒砂質シルト　地山１%含む
2．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山40%含む
3．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山５%含む

SD11
1．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山１%含む
2．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山10%含む
3．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山３%含む
4．10YR6/8　明黄褐色細粒砂質シルト　暗褐色シルト40%含む
5．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山50%含む
6．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山10%含む
7．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト
8．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山３%含む
9．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
10．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト　地山40%含む
11．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト



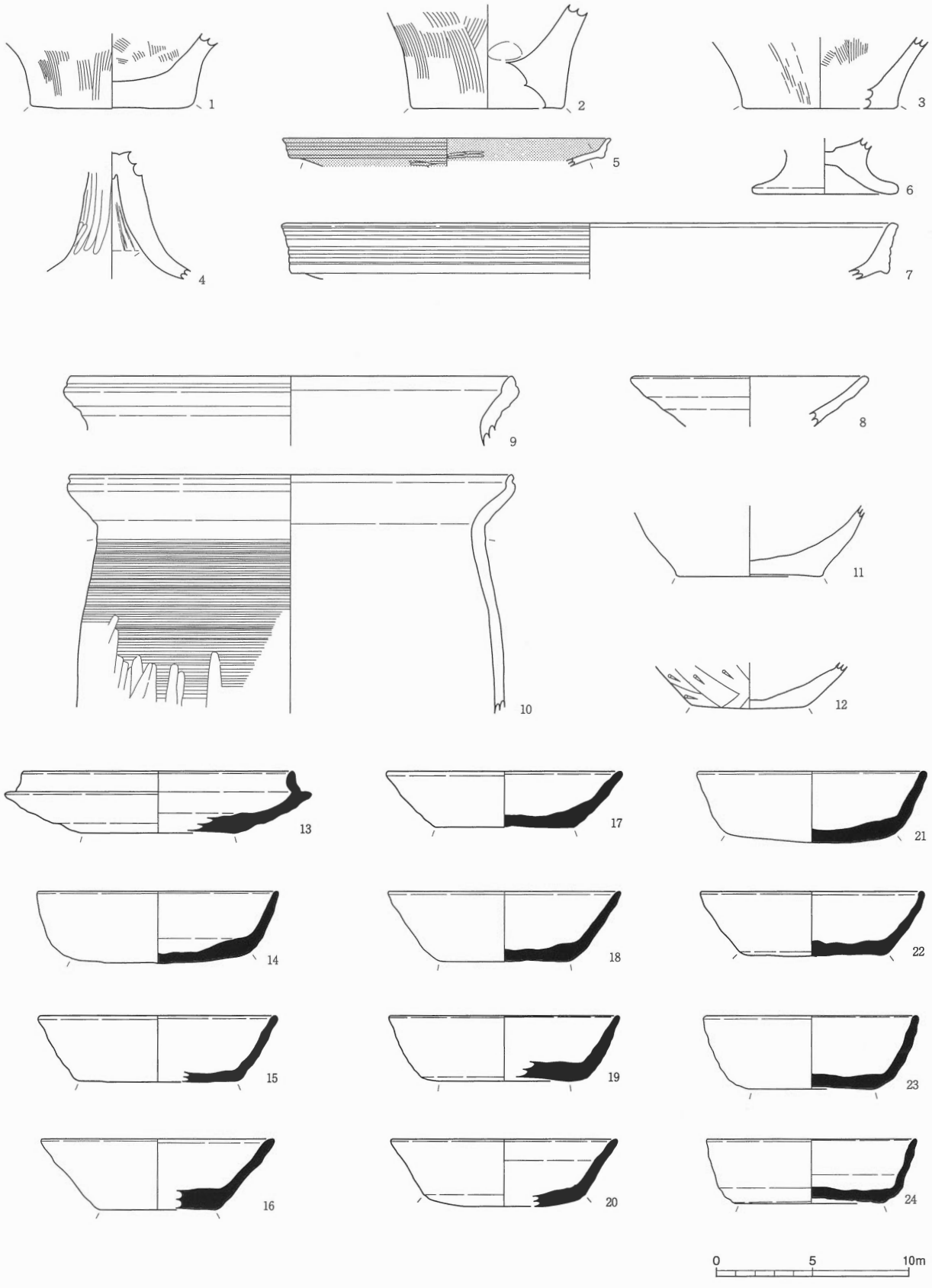
SD04
1．10YR3/3　暗褐色細粒砂質シルト
2．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト
3．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト　明青灰色粘土30%含む
4．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト　オリーブ灰色細砂１%含む
5．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト　オリーブ灰色細砂40%含む
6．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト　明青灰色粘土３%含む

SD08
7．10YR3/1　黒褐色細粒砂質シルト

溝土層断面図

縮尺１／40・１／60

図面〇七　遺物実測図

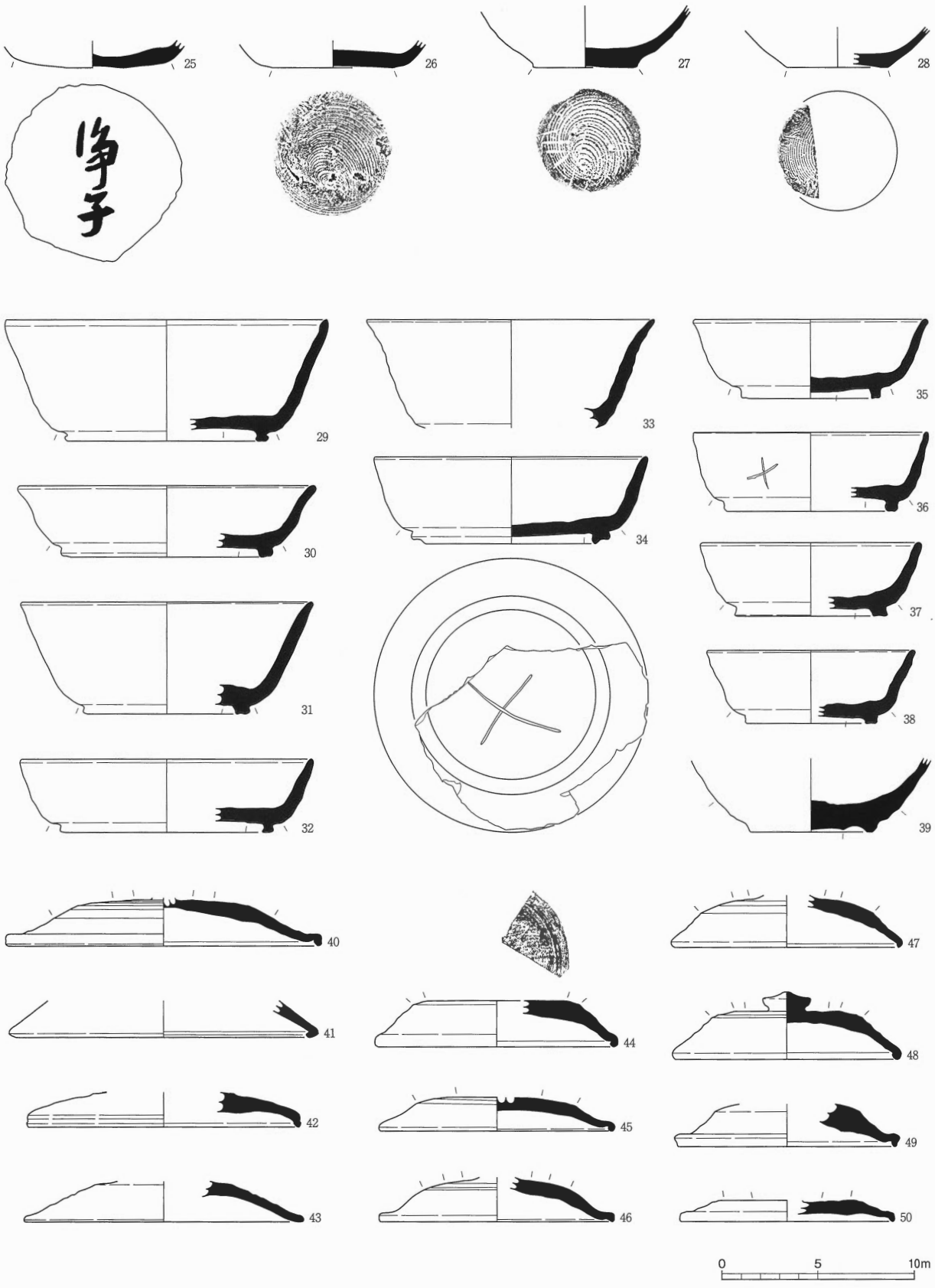


土器類

弥生土器；１～７，土師器；８～12，須恵器；13～24

縮尺１／３

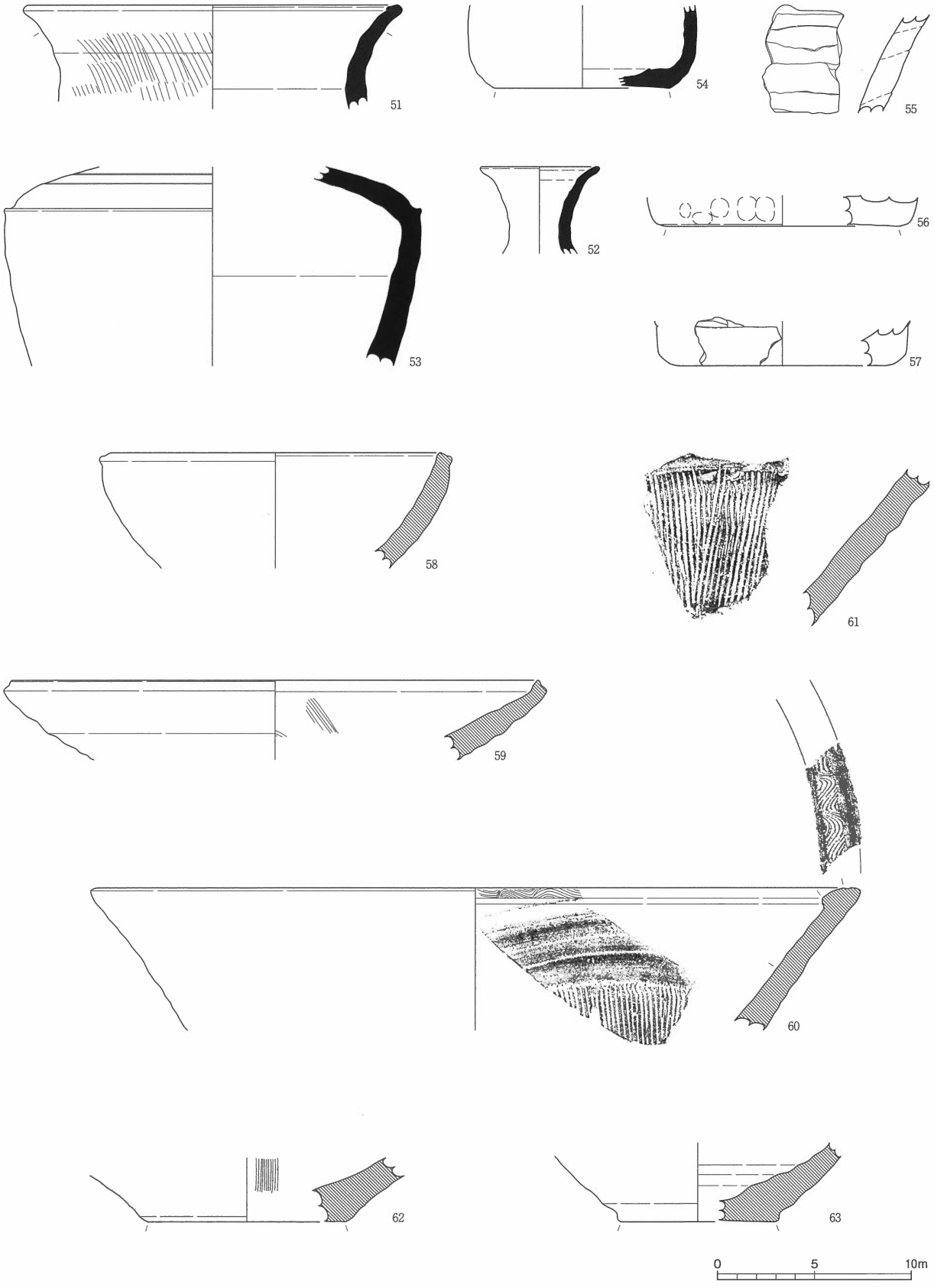
図面〇八　遺物実測図



土器類

須恵器；25～50

縮尺１／３

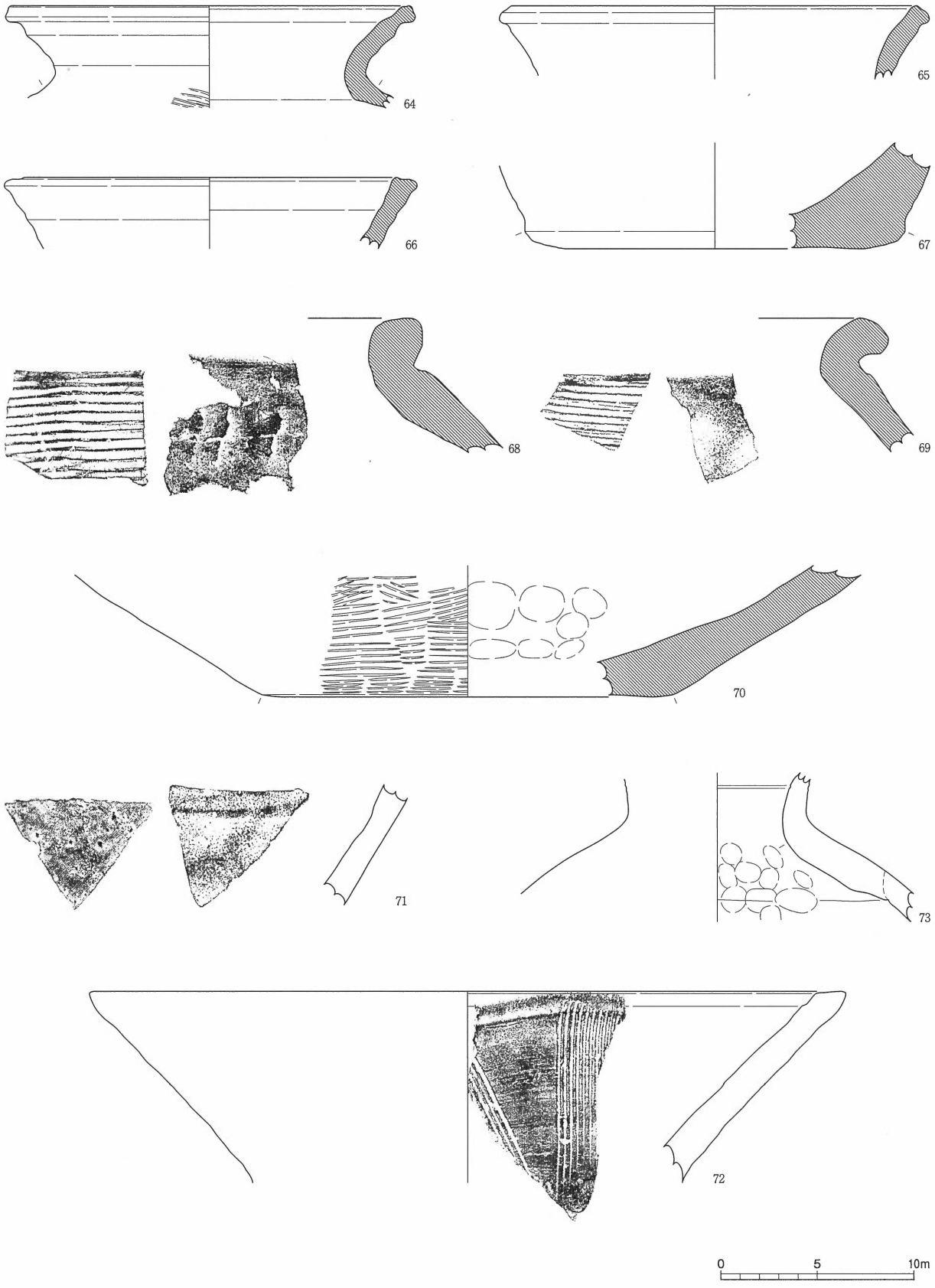


土器類

縮尺１／３

須恵器；51～54，製塩土器；55～57，珠洲；58～63

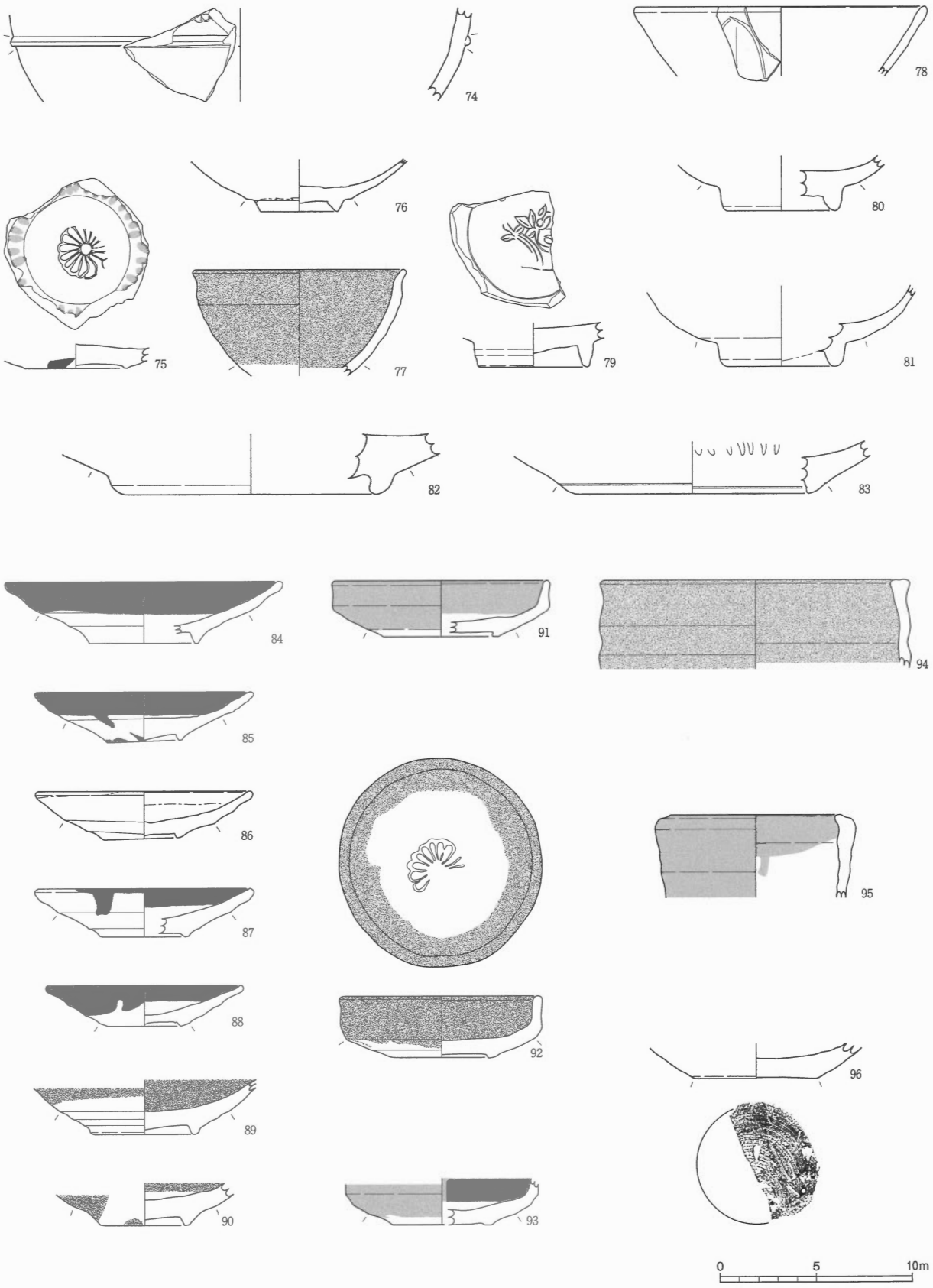
図面一〇　遺物実測図



土器類

珠洲；64～70，八尾；71，越前；72・73

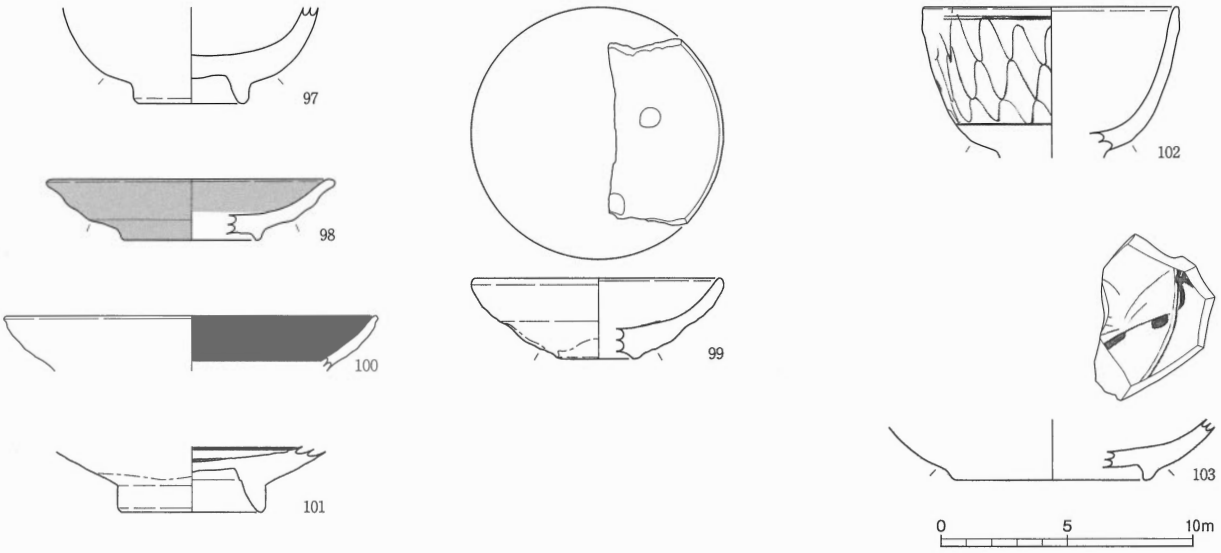
縮尺１／３

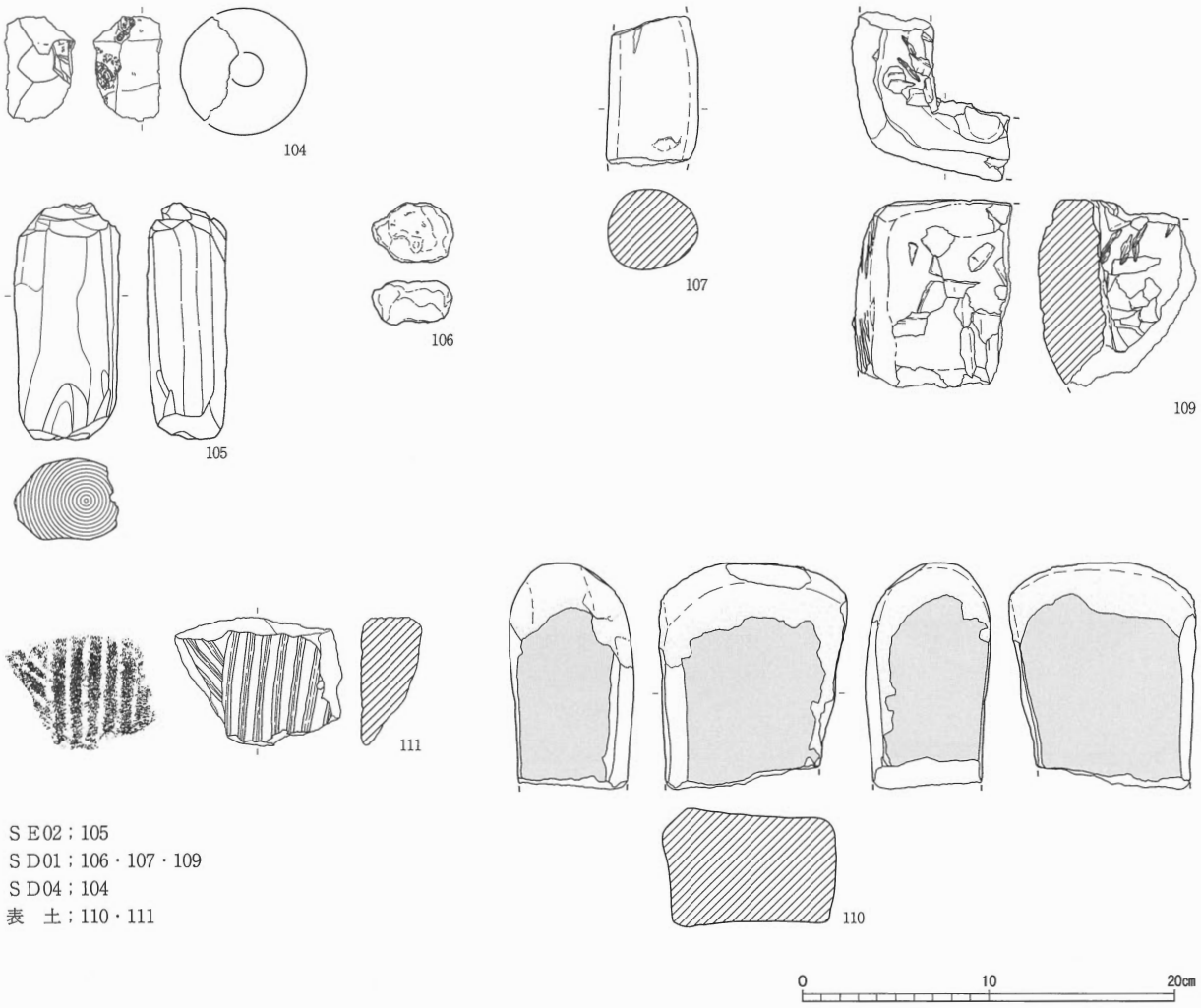


土器類　　縮尺１／３

瓦質土器；74，瀬戸美濃；75、白磁；76，天目茶椀；77，青磁；78～83，越中瀬戸；84～96

図面一二　遺物実測図





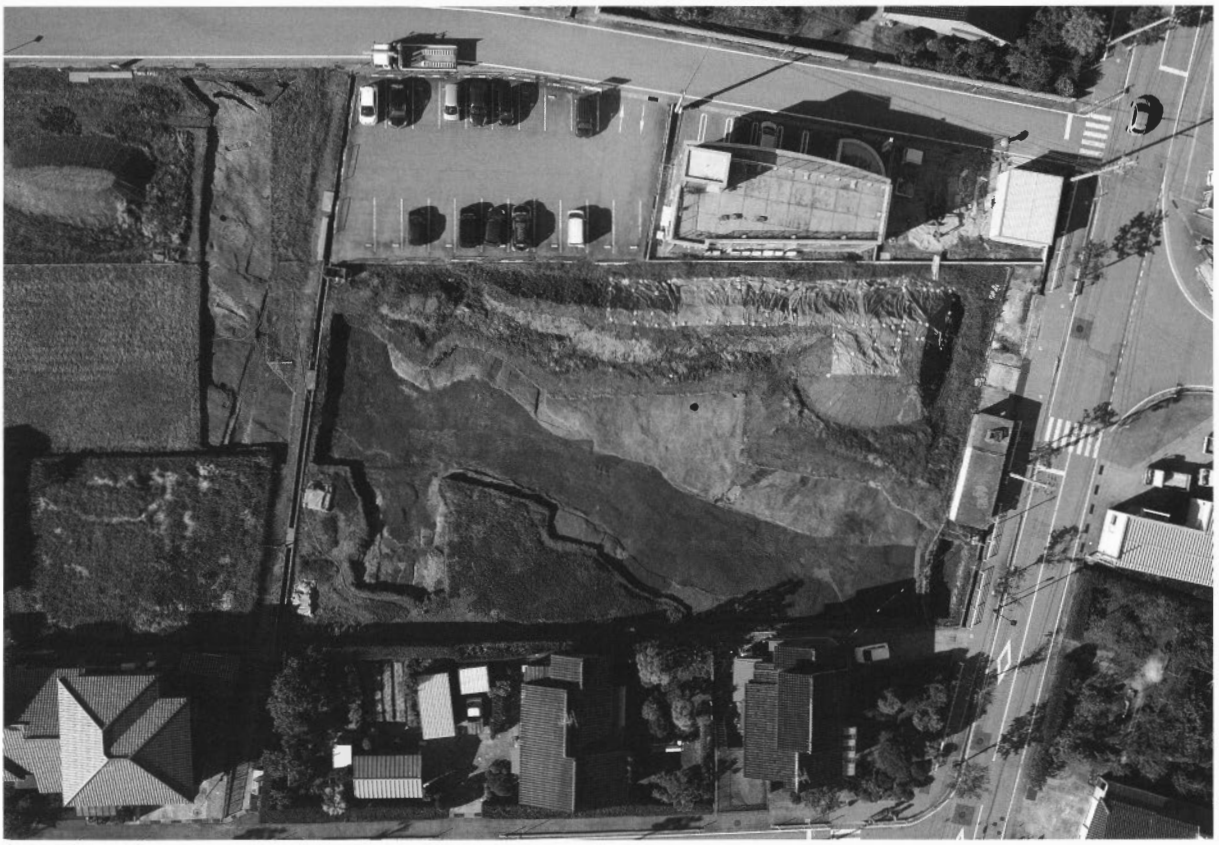
S E02；105
S D01；106・107・109
S D04；104
表　土；110・111

土器類・その他の遺物　　縮尺1／3・1／4

瀬戸美濃；97・98，肥前；99～101，伊万里；102・103，鞴の羽口；104，部材；105

鉄滓；106，石棒；107，行火；109，砥石；110，石臼；111

1．調査地区全景（西）

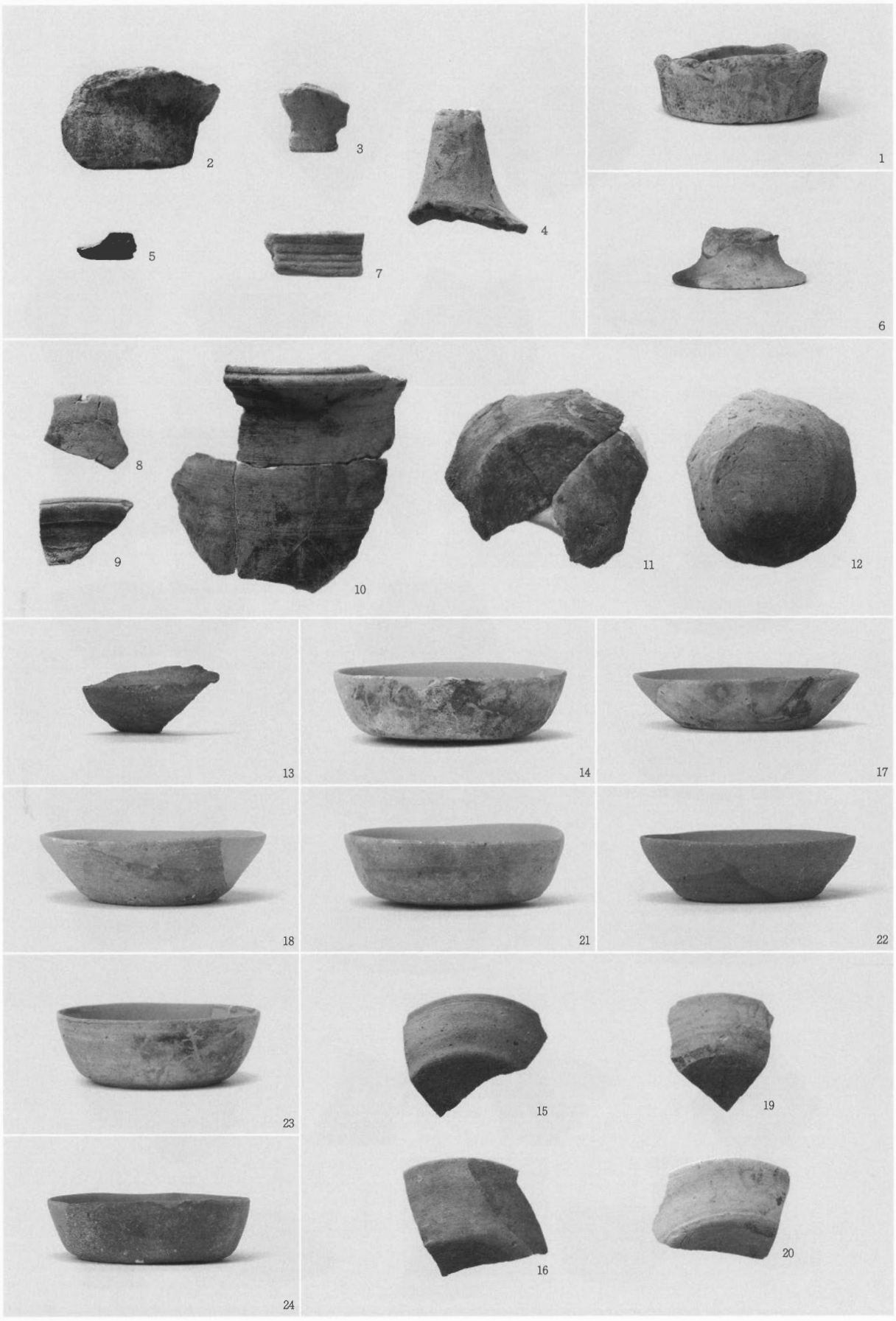


2．調査地区全景（上方）

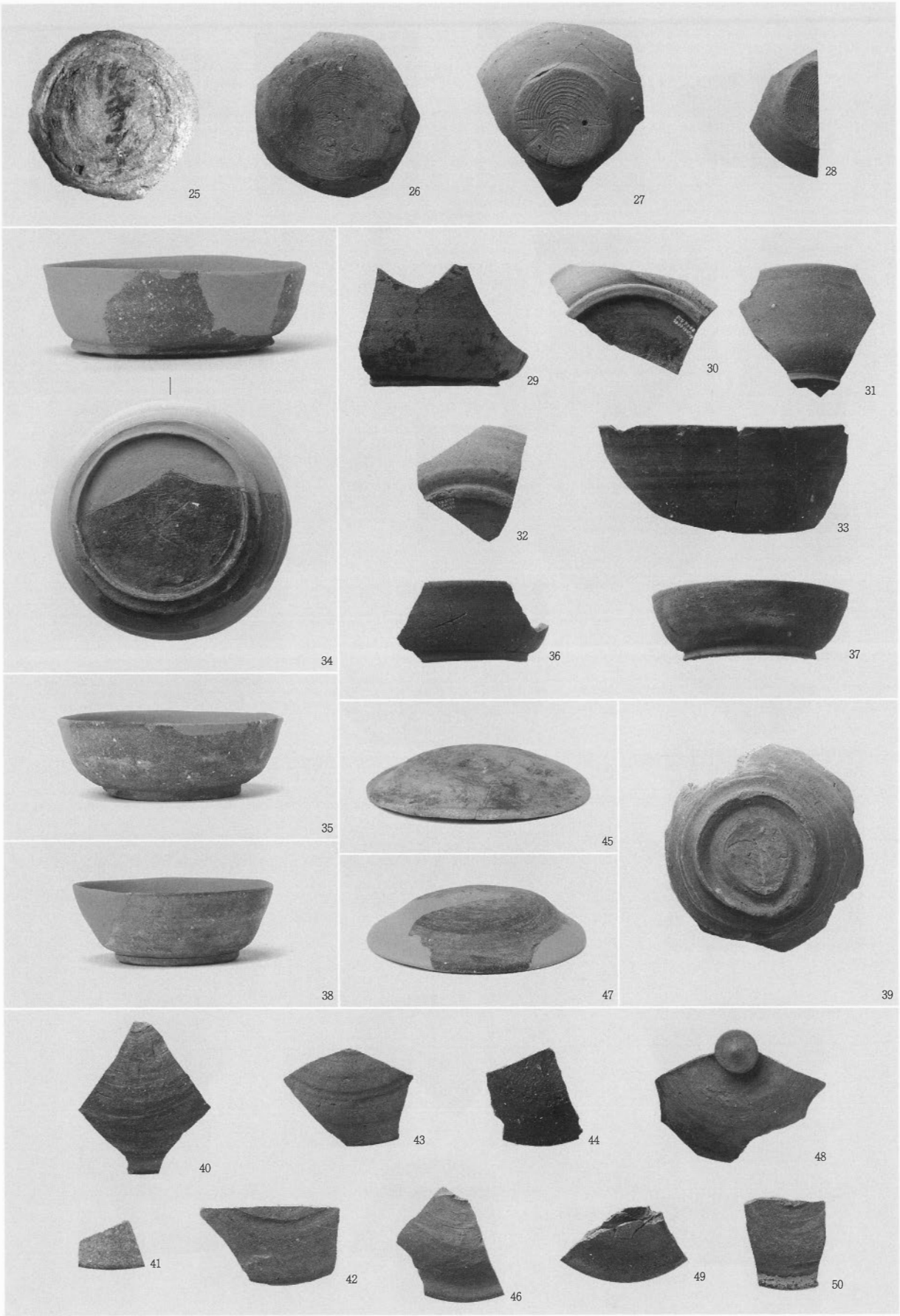
1．溝ＳＤ03全景（南）

2．井戸ＳＥ01全景（東）

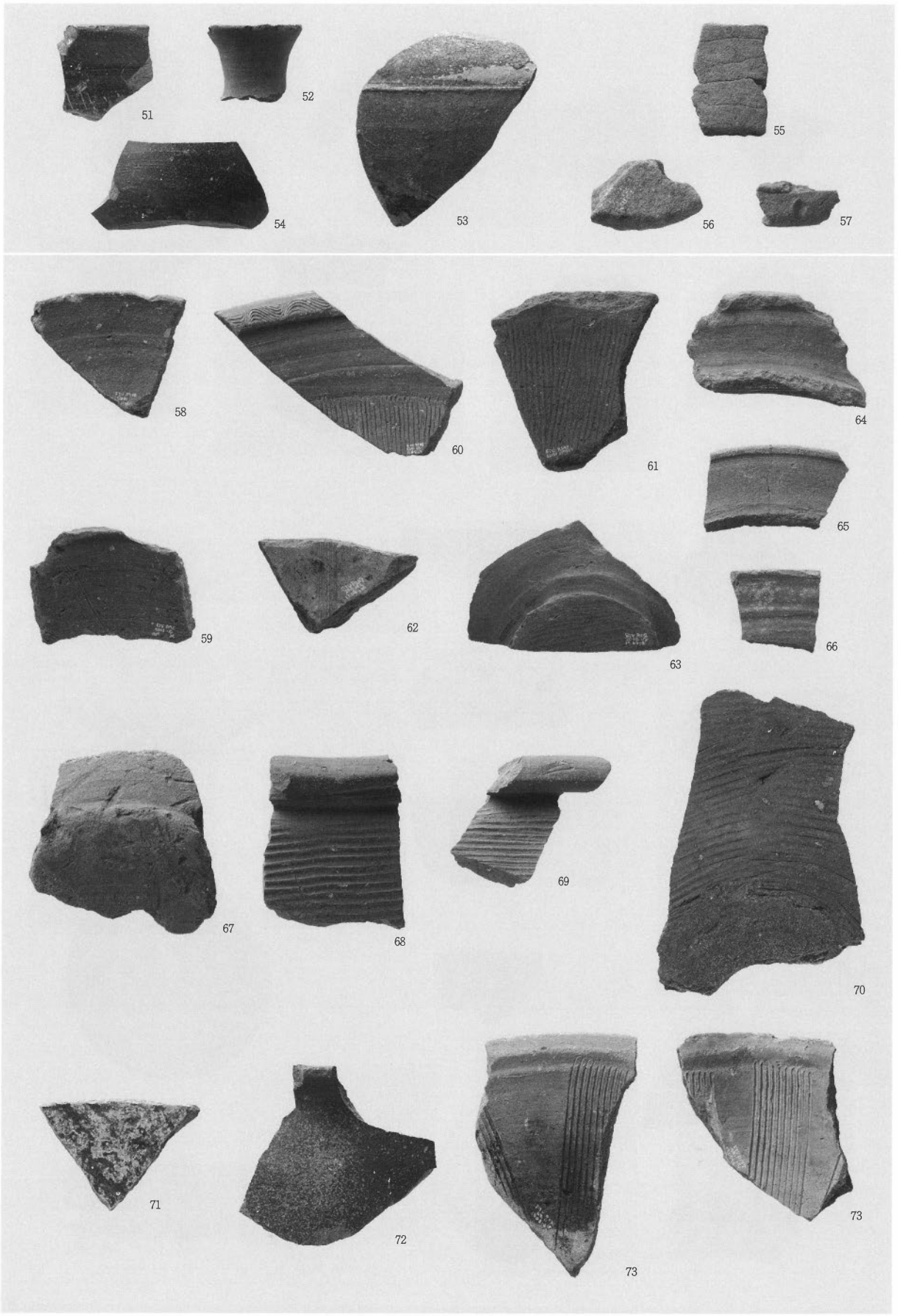
3．井戸ＳＥ02全景（東）



土器類　弥生土器・須恵器

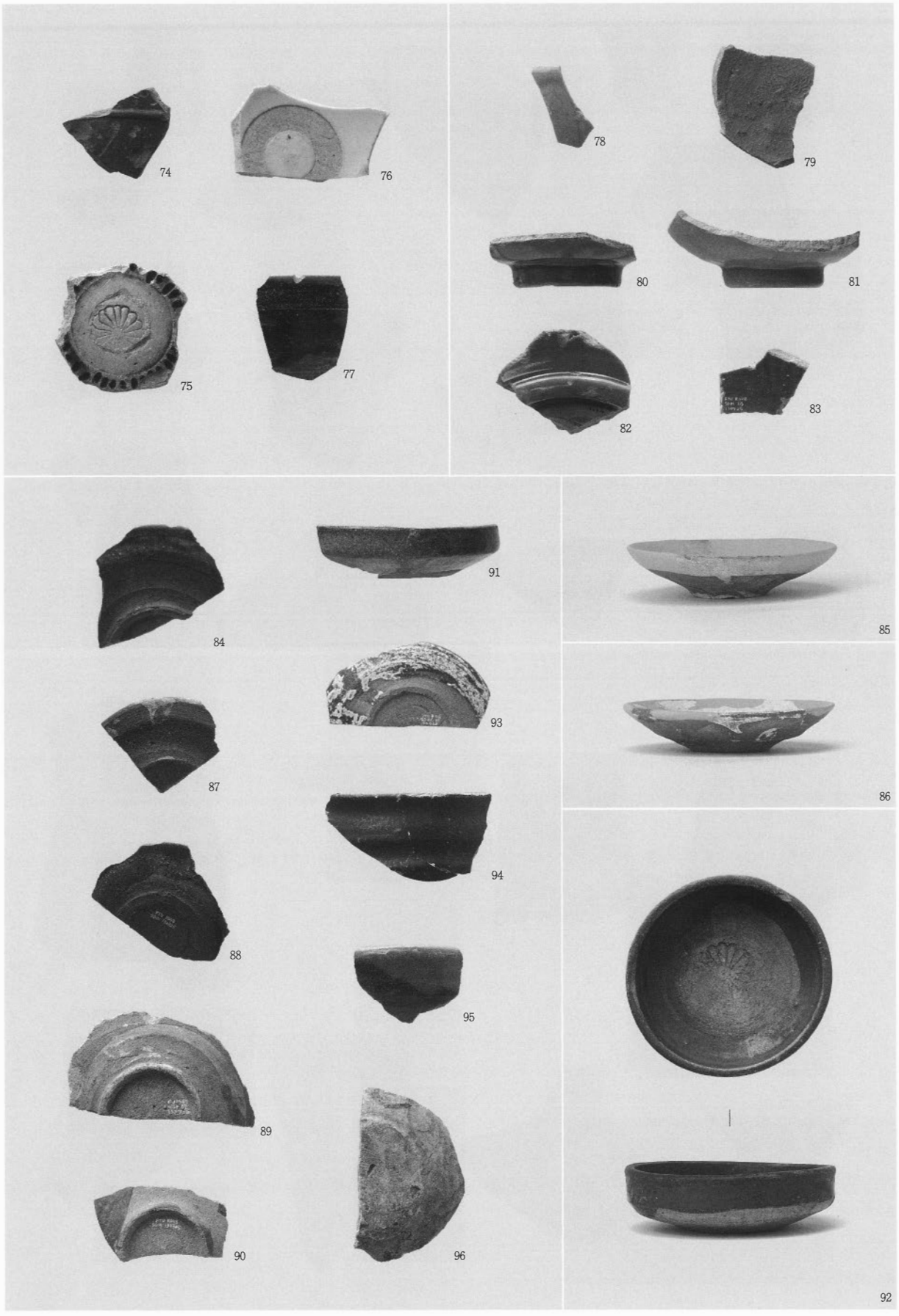

25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

土器類　須恵器

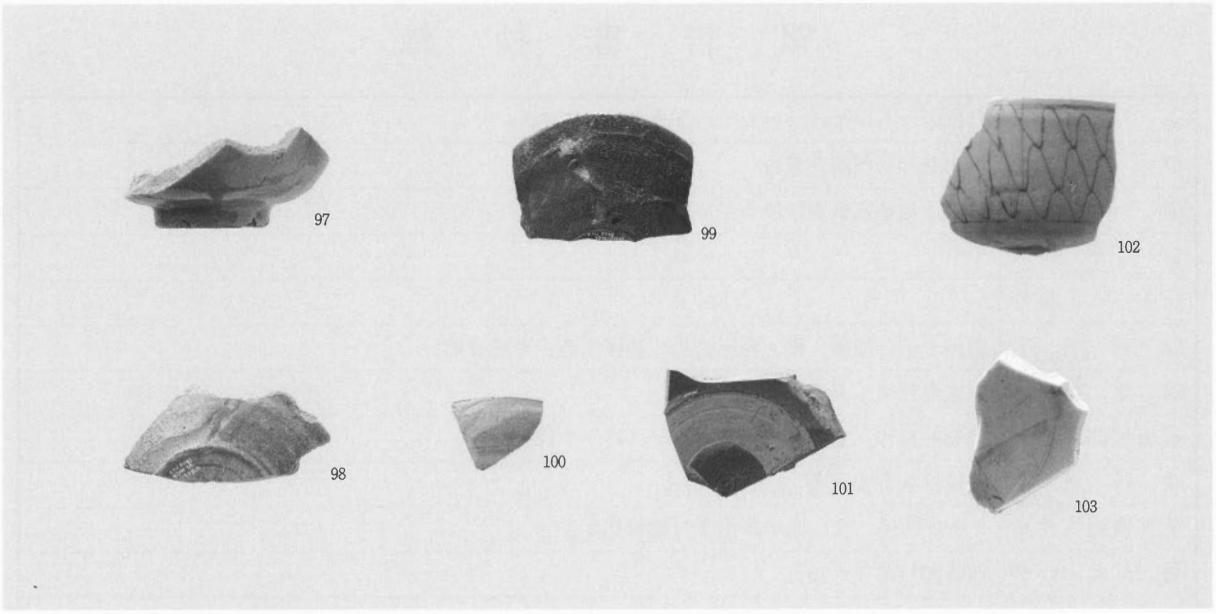


土器類　須恵器・珠洲・八尾・越前

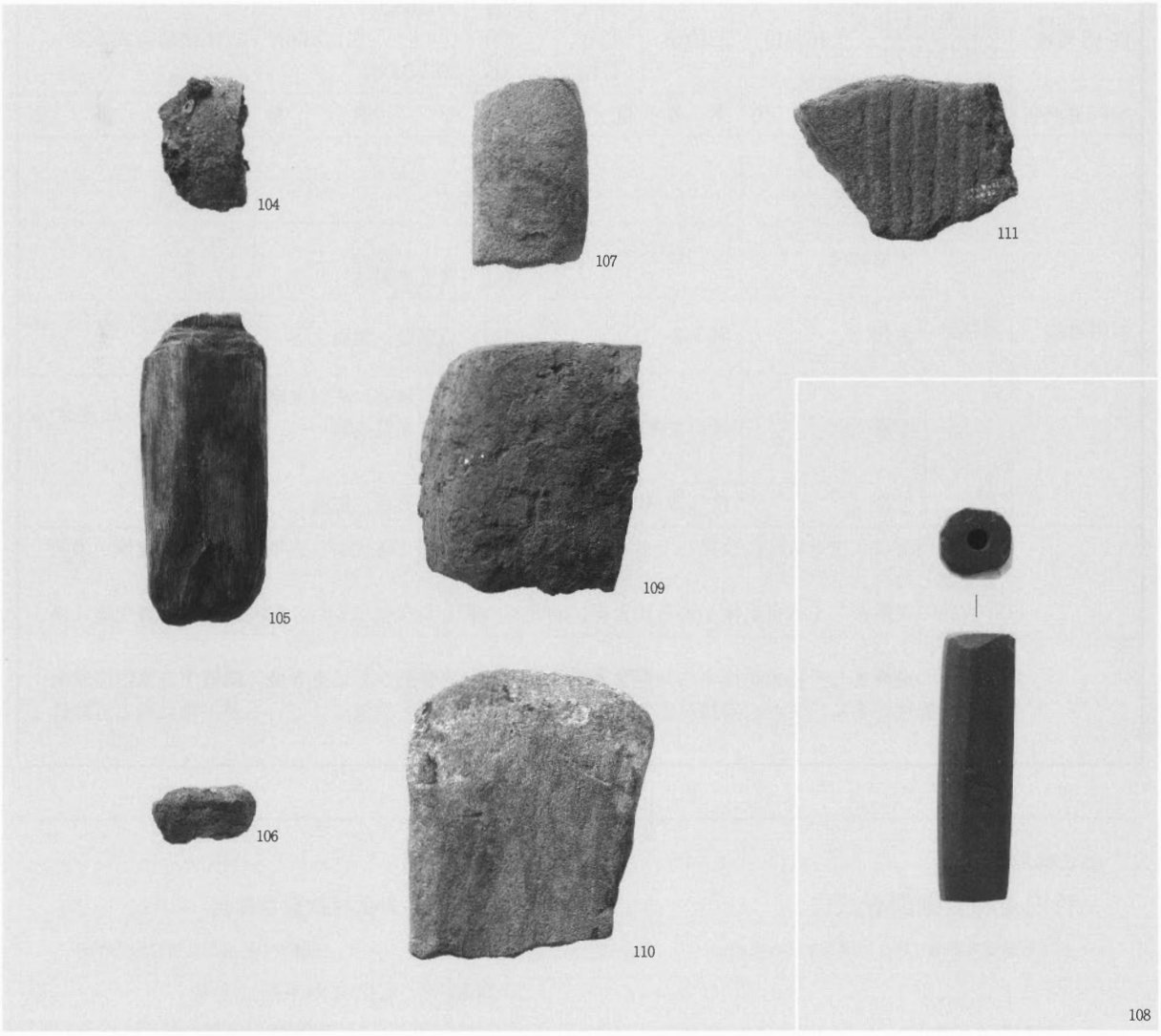
図面〇六　遺物写真



土器類　瓦質土器・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸



1．土器類　瀬戸美濃・肥前・伊万里



2．その他の遺物　鞴の羽口・部材・鉄滓・石棒・管玉未製品・行火・砥石・石臼

報　告　書　抄　録

ふりがな	たけのうちいせきはっくつちょうさほうこく
書名	竹内遺跡発掘調査報告
副書名	住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	岡田一広、加藤　穣、島田亮仁、神保孝造、吉田有里
編集機関	株式会社エイ・テック
編集機関所在地	〒939-1119　富山県高岡市オフィスパーク12番地
発行機関	舟橋村教育委員会
発行機関所在地	〒930-0295　富山県中新川郡舟橋村仏生寺55
発行年月日	西暦2014年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
たけのうちいせき 竹内遺跡	とやまけんなかにいかわぐん 富山県中新川郡 ふなはしむらたけのうち 舟橋村竹内	163210	321023	36度 42分 17秒	137度 18分 23秒	20130826 ～ 20131003	1,239㎡	住宅団地造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹内遺跡	集落址	縄文時代		石棒	
		弥生時代		弥生土器	
		古墳時代		須恵器 石製品（管玉未製品）	
		古代	溝１条	土師器、須恵器、製塩土器	墨書土器「浄子」出土
		中世	井戸２基	珠洲、八尾、越前、瀬戸美濃 白磁、青磁、瓦質土器 木製品（部材）	仏生寺城に関連する井戸の検出
		近世	自然流路３条	越中瀬戸、伊万里、肥前	

要約

竹内遺跡は仏生寺城跡に西接しており、今回の調査では縄文時代から近世にかけての遺構・遺物を確認した。

古代の遺構として８世紀後半から10世紀にかけての溝１条を検出した。溝内からは墨書土器「浄子」が出土した。

中世の遺構として15世紀後半の井戸２基を検出した。小字名から仏生寺城に関連する家臣団屋敷跡の可能性がある。また、自然流路３条を出土遺物から近世と位置づけているが中世に遡る可能性がある。

富山県舟橋村

竹内遺跡発掘調査報告

― 住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査 ―

2014年３月25日

発行者　舟橋村教育委員会

富山県中新川郡舟橋村仏生寺55

印刷所　富山スガキ株式会社

富山県富山市塚原23-1